

# 六稜舎報

昭和56年8月31日発行  
発行 大阪府立北野高等学校内  
六稜同窓会  
〒532 淀川区新北野2-5-13  
電話 06(303)5661代表  
接替 大阪68025  
編集 山本次郎・清藤正巳  
印刷 フジエフポート印刷  
電話 0729(87)8254

NO. 14 1981・8・31



十三公園からの眺め

故 岡島吉郎先生 画

# 本年度総会は

10月23日(金)午後5時半から

堂ビル9階 清交社で (北区西天満2-6-8) 電話 361-0833

卓話 「よき加齢 よき別れ」

大手前女子短大教授 医学博士 磯典理氏(昭和8年卒・46期)

会費 3,000円 (但し、S47卒以降一卒業10年以内一と)  
(S4卒以前一70才以上一の方1,500円)

## 昨年の総会から

### 卓話 石油事情について

本田早苗(48期・昭和10年卒)

最近、石油関係の情勢が動いており、第1次石油ショック、一昨年末にはイラン・イラクの政変が起り、第2次石油ショックということがいわれている。一年半で何とか形がつくということで、小康を保っているが、またまたイランとイラクの紛争により戦争が起り、為に日本に対してイラクの石油輸出停止という事態により、通常の1割程度、わが国の石油輸入が減っている状況である。

しかし世界の石油状況は、需要がだいぶ落ちこんでいるので、供給に余力を生じている。従って世界各国では、備蓄をしており、この戦争が周辺の諸国に波及しない限りは第1次石油ショックのようなことにはならないと考えている。

さて、基本的にどのような石油の状況であるかということ、まず、石油資源の開発については、各国とも勉強につとめているが、新しい石油の発見はむつかしく、例えば北海というような、大変作業のむつかしい場所が対象になっている。それで開発の期間は長かからず、投資額も大きくなる。

一方、石油消費の方はどうなっているかということ、先の北海油田を一年で全部掘りあげる位の量を毎年消費している。しかし、毎年北海油田と同じ位の発見はむつかしく、大体7割ぐらいが新しい発見で、あとは埋蔵量をくいつぶしている。オペックはこの資源を温存し、価額をつりあげるという所得是正政策をはっきり打ち出している。先進工業国の石油依存率は、日本、フランス、イタリア等は100%、アメリカは50%平均すると70%位の依存率で、その8割はオペックの石油を輸入している。しかもオペックの石油は生産の増加は期待できず、なおオペック諸国では自国に於いて原油を処理し、製品で輸出する方向にある。従来国際石油資本により、世界の需要に対して、うまく供給の役を果たしてきたが、今や産油国の産油状況に左右され、供給が不安定になった。このような中で消費国はどう対処すべきか。結論的には、石油を効率よく利用すること、省エネが大切である。

現在、石油は工業と農業とで大量に消費されている。冬野菜を作るのにナスビ50cc、キュウリ100cc、メロン10,000cc

の石油が消費される。発電部門では、消費石油のエネルギーの40%が電気になり、60%はむだになる。技術革新が必要なのである。

次に代替エネルギーの問題についてふれると、その開発が現在政策の大きな目標になっていて、脱石油へ努力が行なわれている。その一つの考え方は、ソフトエネルギーパス一再生可能なエネルギー太陽・海洋・風力・水力・地熱・アルコール燃料一であり、原子力など考えるべきでないという立場である。しかし例えば農作物でアルコールをとる場合、そのロスが大きければかりでなく、作物を作る肥料、耕すためのエネルギーが必要で、食品としてはそれでよいが、エネルギーとして役には立たない。

その他の代替エネルギーとして、原子力、LNG、石炭の活用が考えられるが、中でも石炭は豊富に存在し、埋蔵量は石油の5倍、現在の生産規模でいくと200年はもつことになる。しかも突極的な埋蔵量となると更にその数倍と考えられる。問題は採掘・運搬・燃焼・灰の処理であるが、液化によって解消する。この研究は南アフリカで成功し、日本でも進められている。しかし大変なお金と年月がかかるもので、商業化されるのは遠い将来である。それまでは石油が主役なのである。

従って、石油の安定確保が必要である。とりわけ備蓄が必要であるが、それには大変な用地と資金が必要である。しかし第2次石油ショックにおいて、第1次のようなことにならなかったのは備蓄のおかげである。国際的にもIEAに21ヶ国が加盟して、備蓄に臨んでいる。

それ以外に自衛手段だが産油国との間の関係を常に良好に保ち、円滑な輸入のできるようにすることが大切である。民間だけでなく、政府も外交的におし進めるべきである。われわれは代替エネルギーを作り出す技術をもっており、産油国もやがてはこれに依存することになる筈で、このような相互依存をはっきり相手国に認識させ、過激な産油政策をとらせないように関係改善をし、外交の成果をあげていくことが必要である。

(前丸善石油社長)

(本稿は昭和55年10月9日の六徳同窓会総会における卓話をまとめたものである)

# 東京六稜会ニュース

恒例の日本工業倶楽部にて、6月5日第24回の総会が行われた。出席者数 220名。大阪より、名誉会長泉校長と瀧崎先生が、同窓会を代表して瀧池副会長のご出席を賜わった。

総会の模様は以下の如くであるが、規約にもとずき玉置東京六稜会会長に引続き会長をお願いすることを、総会で決議されたことを付記しておきます。

東京六稜会常任幹事 大山利雄 (56期)

## 第24回東京六稜会総会報告

東京六稜会幹事 大島正行 (86期)

今回は産経スポーツ新聞社会長東川一郎氏 (49期) よりスポーツよもやま話と題して講演がありました。東川氏は一線をしりぞかれて10年になられるようですが、スポーツ紙の誕生から今日の発展までの興味あるお話をいただきました。

スポーツ紙が誕生したのは昭和21年。終戦後まず行なわれたスポーツというのは米軍の管理下の神宮球場で行なわれた早慶戦とプロ野球の東西対抗戦であり、今はなつかしい青バットの天下や藤村、別所などが活躍したそうである。

そのころのスポーツ新聞というのは現在の新聞の半分の大きさで、その内容は現在のものとなんら遜色なかった。

日刊のスポーツ紙というのは日本にだけしかなく、スポーツ紙こそ日本人特有の芸のこまかさが必要だ。

一般紙にはこれを読まない世の中から遅れますよという自負心があるのに対し、スポーツ紙は少しでもお客を引き付けるためにかざりたて、どうぞお読み下さいという気持ちがあります。浮気な読者を引き付けるためにはそうしなければならぬのだそうです。

スポーツ紙の売れ行きが一時頭打ちになったころ、売るためのアイデアを考え出すために社員を遊ばせ、そのかわりによいアイデアを持って帰ってくるように言われたそうです。これは東川氏の実家が大阪のどぶ池の業問屋で、その影響によるGIVE & TAKEの精神だそうです。その結果宅配と即売

を別に作り、即売の最終面にボルノ記事を載せることを考え出されたそうであります。このことがスポーツ紙が順調な歩みをつづけるために大変プラスになったそうです。

東川氏は現在、毎朝出勤の時間をかえて電車で会社へ行かれる。その理由は、毎朝スポーツ紙がどのように読まれているかを調べるためで、それによると、やはり春画を見ている人が多く、それも40~50才ぐらいの人が特に多い。

最後に大鷲の引退にまつわるスクープの話がされました。昭和45年の名古屋場所3日目に大鷲は三重ノ海に破れ、そのときに右足をねんざし、引退は時間の問題であるというわきが流れたそうでした。各紙の記者は引退は時間の問題であると本社に打電したのですが、産経スポーツの記者は、他の記者が相撲部屋をひきあげたあと大鷲の部屋に近づいてみると大鷲はかやの中でスイカを食べていた。大鷲はその記者をかやの中に入れ、自分はこのような成績で引退したくないと打ち明けました。それで産経スポーツだけが引退せずというスクープを載せることができたそうです。

その記者は力士の力をみぬくのがうまく、将来のものになると思う力士に対しては手厚く面倒を見るそうです。力士というのは下積み時代に受けた恩は忘れないので、大鷲もその記者にだけ打ち明けたのだろう、ということでした。

平生の人とのつながりが大切だということを痛感した出来事であったそうです。

30分あまりの短い時間でしたが、裏話などを混ぜた中身の濃いお話で、たいへん楽しい講演でした。

そのあと、7時から総会に移り、まず今回出席された方の中の最長老であられる日野光雄氏の乾杯が行なわれた。みなさんひさしぶりに顔を合わされた方が多く、あちこちに談話の輪ができるというごやかな雰囲気でした。総会も盛り上がり、続いてこの春めでたく大学に入学した新人諸君の自己紹介が行なわれ、最後に、出席者全員で校歌と応援歌を歌い、盛会のうちに総会の幕は閉じられました。

年会費は 2,000円です!!

よろしくご協力をお願いしまあす!!!

年会費制度の採用により、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。

さて、昭和58年(2年後)創立110周年を迎えることとなりますが、相当の財源の確保が必要です。

年会費は2,000円になりましたが、逆に納入者が減ってはなにもなりません。何卒この間の事情をご了解いただき、旧に倍するご協力ご協賛をお願い申し上げる次第です。

財団法人 洪庵記念会

産婦人科 緒方病院

緒方正美(53回)・緒方正世(54回)・緒方正名(56回)

大阪市東区今橋3丁目18番地 電話 06 (231) 3255・3256・3257

# 会務報告

## 名簿広告料金きまる

会員総数25,000名 コンピューターに入力完成

通信可能者数正会員 16,512名

特別会員(旧職) 179名 計16,691名

昭和58年 名簿発行 準備完了

常任理事会(56.5.15) 理事会(56.6.26)

昭和56年度 第1回常任理事会  
昭和56年度 第1回理事会

第1回常任理事会は、5月15日(金)5時30分より清文社に於いて開催され会務の報告・検討・本年度の総会等諸行事について慎重な会議がもたれた。

それに基づき6月26日5時30分より、清文社に於いて第1回理事会がもたれ、下記の通りの承認及び決定が得られた。

### 1. 新役員ご紹介

- 監事 梶田 圭児 (S25卒・62)
- 理事 杉本 一郎 (S10卒・48)
- ◇ 西脇伊兵衛 (S20卒・58)
- ◇ 徳永 行平 (S26卒・63)
- ◇ 新原 知広 (S35卒・72)
- ◇ 前川 正子 (S35卒・72)
- ◇ 木村 市三 (S36卒・73)
- ◇ 高岡 靖弘 (S41卒・78)
- ◇ 清重 剛男 (S56卒・93)
- ◇ 長石 京子 (S56卒・93)

### 2. 昭和55年度会計報告一別紙

### 3. 昭和56年度予算

### 4. 昭和56年度総会の件

- (イ) 日時 昭和56年10月23日(金)  
5時30分(ただし5時より受付)
- (ロ) 会場 清文社
- (ハ) 会費 3,000円(ただし昭和4年卒以上と昭和47年卒以降は1,500円)
- (ニ) 卓話 講師(7月末までに決定)

### 5. 会報の件

本年度は、110周年記念総会へ向ってのアピールを中心とする。名簿発行に関する予告、名簿の広告募集予告。9月上旬発送予定。8月中に印刷、従って7月末までに原稿をとりまとめることになる。

### 6. 名簿整理の進捗状況

- 5月30日 校正台帳を凸版へ→訂正情報入力
- 6月22日 最終校正用台帳凸版より学校へ→最終校正
- 7月10日 校正完了。台帳を凸版へ→入力
- 8月10日 本台帳及び宛名タック紙学校へ

従って変更情報記載は5月末日現在で打切る。ただし7月8日までに学年の理事或いは代理の人が来校の上、補正することは可。来校はご案内の通り(56.6.10.各理事宛名簿に関して連絡ずみ)7月3日(金)4日(土)5日(日)6日(月)7日(火)のいずれかの日にお願ひ出来れば幸甚。

なおDM(宛名タック紙)申し込みは葉書にて7月10日まで。

### 7. 名簿広告の件

- 100周年の名簿広告料と同じ。
- 見開き1頁(表裏とも) 300,000円
- 中はさみこみ1頁 100,000円
- ◇ 1/4頁 60,000円
- ◇ 1/2頁 40,000円
- ◇ 1/4頁 30,000円

### 8. 110周年(昭和58年度)記念総会の件

#### 役員・組織

常任理事業務分担は下記の通り。  
今後度々企画委員会を開き、日時・会場・規模・記念品等について検討していくことにする。

- 総務 田村・楢崎・日高
- 企画 全員
- 渉外 大山
- 会報 山本
- 名簿作成 奥田
- 広告 全員

常任理事・田村博孝(S9卒・47)  
緒方正美(S15卒・53) 大山利雄(S18卒・56) 奥田亘(S19卒・57)  
楢崎浩二(S20卒・59) 日高成(S22卒・60) 山本次郎(S25卒・62)  
堤典子(S26卒・63) 溝脇正巳(S28卒・65 学校主任) 丸野豊子(S29卒・66)

本年1月よりコンピューター導入による名簿整理を着々と進めてまいりましたが、7月13日をもって第一期作業を終了しました。その間、7月3日(金)~7日(火)の間、下記各期の理事或いは代理の人に來校願ひ、最終的な見直し校正をしていただいた。

一応、昭和56年5月末日現在までの情報をすべて入力出来たと思います。

この際、思い切った大整理が必要かと考え、例えば複数期にまたがっている会員を発見した際は、卒業年度に一本化する方針をとりました。又、海外移住や就学等で下宿や寄留している場合は留守宅や親元の住所を連絡先として記載しました。

本会員台帳は8月20日、DM(宛名タック紙)と共に刷りあげました。入力者総数24,707名(正会員23,942名・旧職員679名・現職員86名)うち通信可能者は正会員16,512名・旧職員179名現職員86名です。

今後、住所・勤務先等に変更・訂正の必要な場合は、すみやかに北野高校内六校同窓会(溝脇)宛にご通知下さるようお願いいたします。

本年度DM(宛名タック紙)の申し込みをしめきりました。申し込み年度とセット数は次の通りです。

DM(宛名タック紙)申し込み年度とセット数

| 卒回 | 理事氏名  | セット数 |
|----|-------|------|
| 27 | 一海景宥  | 5    |
| 39 | 白井次郎  | 3    |
| 41 | 新井清   | 10   |
| 42 | 別府審一  | 1    |
| 43 | 谷弘    | 4    |
| 45 | 松井一雄  | 2    |
| 46 | 奥村宗夫  | 2    |
| 47 | 田村博孝  | 1    |
| 50 | 西田曉夫  | 2    |
| 51 | 石津一貫  | 2    |
| 53 | 緒方正美  | 1    |
| 55 | 岸田恭一  | 3    |
| 56 | 緒方正名  | 3    |
| 57 | 奥田亘   | 2    |
| 58 | 西脇伊兵衛 | 3    |
| 59 | 楢崎浩二  | 1    |
| 60 | 日高成   | 1    |
| 65 | 溝脇正巳  | 1    |
| 66 | 丸野豊子  | 2    |
| 69 | 菅正徳   | 2    |
| 72 | 早石雅宥  | 3    |
| 78 | 岸田知子  | 2    |
| 81 | 寺井あかね | 1    |
| 92 | 住山真一郎 | 1    |

DM宛名タック紙は会報発送のために8月に印刷しますので、7月10日までに入用の学年は、北野高校内六校同窓会まで文書でお申し込み下さい。(有料で、本年度は1人あたり6円でした)。

# 会 計 報 告

## 六稜同窓会 昭和55年度会計報告

### 昭和55年度 六稜同窓会 一般会計報告

| 科 目           | 54年度予算           | 54年度決算           |
|---------------|------------------|------------------|
| <b>収入の部</b>   | 円                | 円                |
| 1. 前年度繰越金     | 2,143,718        | 2,143,718        |
| 2. 入会金収入      | 1,500,000        | 1,500,000        |
| 3. 年会費収入      | 4,000,000        | 5,398,000        |
| 4. 広告収入       | 560,000          | 400,000          |
| 5. 臨時会費収入     | 900,000          | 424,500          |
| 6. 寄付金収入      | 50,000           | 11,852           |
| 7. 利息収入       | 50,000           | 93,653           |
| 8. 雑収入        | 10,000           | 17,000           |
| <b>収入合計</b>   | <b>9,213,718</b> | <b>9,988,723</b> |
| <b>支出の部</b>   |                  |                  |
| (1) 運営費       |                  |                  |
| 1. 人件費        | 150,000          | 304,000          |
| 2. 旅費・交通費     | 300,000          | 168,173          |
| 3. 通信費        | 50,000           | 209,625          |
| 4. 印刷・事務用品費   | 50,000           | 39,060           |
| 5. 会費         | 350,000          | 213,645          |
| 6. 総会費        | 1,000,000        | 716,160          |
| 7. 慶弔費        | 500,000          | 401,390          |
| 8. 雑費         | 150,000          | 173,257          |
| (2) 会報発行費     |                  |                  |
| 1. 編集費        | 100,000          | 37,075           |
| 2. 印刷費        | 1,250,000        | 1,421,852        |
| 3. 発送費        | 1,500,000        | 913,260          |
| 4. 雑費         | 10,000           | 30,000           |
| (3) 予備費       | 2,803,718        | 0                |
| (4) 他会計へ支出    |                  |                  |
| 1. 基金積立会計     | 500,000          | 500,000          |
| 2. 名簿特別会計     | 500,000          | 500,000          |
| <b>支出合計</b>   | <b>9,213,718</b> | <b>5,627,497</b> |
| <b>次年度繰越金</b> | <b>0</b>         | <b>4,361,226</b> |

### 昭和55年度 六稜同窓会名簿特別会計報告

| 科 目           | 予 算              | 決 算              |
|---------------|------------------|------------------|
| <b>収入の部</b>   | 円                | 円                |
| 1. 前年度繰越金     | 2,594,470        | 2,594,470        |
| 2. 名簿売上収入     | 18,000           | 24,000           |
| 3. 広告収入       | 0                | 0                |
| 4. 利息収入       | 90,000           | 88,900           |
| 5. 一般会計より受入   | 500,000          | 500,000          |
| <b>収入合計</b>   | <b>3,202,470</b> | <b>3,207,370</b> |
| <b>支出の部</b>   |                  |                  |
| 1. 編集費        | 200,000          | 0                |
| 2. 印刷費        | 1,861,500        | 1,600,000        |
| 3. 発送費        | 2,000            | 4,940            |
| 4. 雑費         | 10,000           | 0                |
| <b>支出合計</b>   | <b>2,073,500</b> | <b>1,604,940</b> |
| <b>次年度繰越金</b> | <b>1,128,970</b> | <b>1,602,430</b> |

### 昭和55年度 六稜同窓会基金会計報告

| 科 目           | 決 算               | 摘 要        |
|---------------|-------------------|------------|
| <b>収入の部</b>   | 円                 |            |
| 1. 前年度繰越金     | 15,362,287        | 金銭信託(大和銀行) |
| 2. 利息         | 1,228,934         | 二年定期(大和銀行) |
| 3. 新規積立金      | 500,000           | 二年定期(大和銀行) |
| <b>収入合計</b>   | <b>17,091,221</b> |            |
| <b>支出合計</b>   | <b>0</b>          |            |
| <b>次年度繰越金</b> | <b>17,091,221</b> |            |

以上のとおり昭和55年度六稜同窓会会計報告をいたします。

昭和56年 5月 1日

六稜同窓会々長 上野 淳一

本会計の正確であることを認めます。

昭和56年 5月 1日

六稜同窓会監事 滝井 尚三  
同 上 梶田 圭児

○名簿を点検に来られた年度は、次の通りです。

名簿点検者の来校年度(数字率回)

7月3日(金) 46・47・50・51・52・57

58・62・63・65・81

7月4日(土) 29・33・44・55・59・61

73

7月5日(日) 42・43・53・66・71・72

90

7月6日(月) 39・56・67・68・69・70

78・92・82

7月7日(火) 36・37・45・48・49・60

80・93

# ニッピョウ

業務用食品・洋酒・純氷

日本氷業有限会社 (61回古川)

# 北野戦後史

題字 泉 梯二校長

## 一連載第4回一

思い出は続いていた  
北野高校

長谷川 実治



### はじめに

1931年(昭和6年)に初めて教師になった時、教室での教育の不足をテニスコートで補おうと思った。温室では高級植物の栽培はできても、気温の差や風雨に耐えた露地栽培の植物のような自然さや逞しさに欠けると思ったからである。

英和辞典で「スポーツ」の訳語を引くと、最初に運動(娯楽のための)と記されており、以下種々の訳語がある中に、「楽しむ」というのがある。近頃の新聞や雑誌を見ると、勝った負けたの大きな見出しで、勝負本位の、結果論的な記事が多い。しかし又、他の一方では、ゆったりと楽しくスポーツをやり、あるいは第三者の立場からスポーツの試合を、楽しみながら見物する人も増加している。

「プレー」という語が私は好きである。辞書の最初に出てくる訳語には、遊ぶ、ふざける、じゃれる(仕事をしないで)とある。飛び廻る、踊るなどの訳語がある。次に少し感じの変わった、(機械などが)自由に動く、運転するなどの訳語もある。次が競技・試合をする、ばくち、かけをするの四つの訳語が続いている。今日でも勝負事に賭を張る人々がある。訳語はなお続いて、吹奏する、(音楽が)鳴る、演劇・芝居をする、脚本・戯曲・弁論・討論などがあり、プレーヤーといえば俳優・演奏者なども意味している。

以上のように「プレー」とは、運動部の活動にも文化部のそれにも関係している言葉である。野球では、試合の最初に主審が「プレーボール」とコールするが、これは、「プレー・ベースボール」の略語で、テニスではこれを「プレー・テニス」というべきところを略して「プレー」とだけ宣言する。野球やテニスは、最初は大人が遊びとしてプレーしたのを、古くから「よく遊びよく学べ」といわれてきたことから、学校教育での重要な方法として、これが奨励されることになったのであろう。

### 北野中学の初印象

北野中学の校舎は近代的な建築物で、外装のタイルが薄茶色に塗く、重厚な感じであった。表玄関を入ると正面に階段がある。一段目と二段目、二段目と三段目というように、空間を横に走る、巾のある長い直線が幾筋も積み上げられ、その外装タイルの色がとてと素晴らしい。その階段を昇り詰めたところに、講堂の入口と思われる、どっしりとした木造の扉がある。色は濃紺。階段を昇らず、廊下を右に折れて校長室の扉を開けたとたんに、帝国ホテルにでも来たかと思った。調度品・内装・色彩などの醸し出す、得も言われぬシックな雰囲気を感じた。次にグラウンドが思ったより広かったのも嬉しかった。テニスコートも見た。手入れがよく行き届いている。コートを見れば、そこでプレーする人々の人柄が窺い知れる。テニスでは常に「三引け」といわれる。草引き、

ライン引き、ローラー引きの三つを喧しくいわれるのである。北野中学は運動部の活動が盛らしい。これが1940年4月初めの、静かなある日の私の初印象である。

### 北野中学の運動・校外活動

予想通り北野ではグラウンドや校外活動が盛んであった。選手活動もさることながら、一般生徒の運動熱が旺盛であった。昼休みともなれば、ボールを蹴る、打つ、投げる。また走り廻る者、鉄棒にぶら下る者、グラウンドは賑やかである。

休日や祝祭日に登山部(水鳥喜平先生)主催の近郊登山案内を発表すると、部員以外の生徒が多数参加する。また地歴科の先生の指導による校外学習も大いに人気があった。全校行事としては、一月末に六甲(時には金剛)登山があり、学年別のもとしては、一年生が学期末試験を二年生以上より早く終了して、7月10日頃から甲子園海岸での水泳練習に行く。先輩たちも指導その他の手伝いにくる。夏休みともなれば、全校からの有志が淡路島や若狭方面へ合宿に行き、一方では高野山や天龍寺などへの林間学習があり、私が二年生と高野山へ2泊3日で行ったのは、学年全員での合宿ではなかったらうか。夏休みは勿論運動部の活動期間で、合宿練習や試合で忙しい。また「山がそこにあるから登る」と、黙々と一步一步を踏みしめて努力する登山部の活動も熱心であった。待兼山・花屋敷・茨木方面へ兔狩りにも行った。1931年(昭和6年)現在の新校舎へ移って早々、博物(現在の生物)の大須賀嵐先生が屋上を利用して園芸部を始められたのが、当時の新聞種となったという。屋上の破損が早くなるからというのでテニスコート横に移ってからも園芸部は続けられていた。その頃は鹿兒島高等農林学校出身の作業科の高田新作先生が堆肥を入れて、よく手入れをされており、作業科の外にも工作科には二人の先生がおられた。

グラウンドや校外活動には体操科(現在の保健体育科)の先生の外に、他学科の先生方も多く参加されたが、そのうちの記憶に残っている先生方を紹介しておく。

英語の水鳥喜平先生は登山、地歴の山本亮吉・土屋憲三・三橋正道の三先生の地歴校外学習は勿論のことながら、土屋先生は学生時代に400米のレコード・ホルダーであり、陸上競技を、また絵の展覧も開かれるという三橋先生は登山の指導、物理・化学の梅垣淳二先生は古式泳法の有段者で水泳を、英語の大谷流志郎先生は野球部の監督であり、国漢の鈴木清三郎先生が部長、同じ国漢の平田泰雄先生はテニス、全国大会で秋田工業との準決勝を引き分け、抽籤で敗者となったというエピソードを持つラグビーは物理・化学の渡辺健之と数学の村上正巳、英語の矢野(織田)淳一の三先生。そのうち昭和15年に赴任された若き矢野先生は学生時代全国的に有名なサッカーの選手であったが、戦前の北野ではサッカー部は遂に成立しなかった。

### 運動部活動と戦費

ラグビーではトーナメント法の勝ち抜き試合やじゃんけんによる勝敗の決定などは例外である。チームの対抗試合で、時間が来れば延長戦も笛を吹けばノー・サイド。その試合よりは、各プレーヤーが激闘の中で喧嘩のうちに判断し、決断して自己そのものを表現する競技であり、長時間に亘って他人からの助言などは受けない、ゲームというよりプレー本位の競技である。しかし、やがて戦争が深まるにつれて、このラグビーも「闘球」となる。上海・南京・漢口(現在のウーハン市)を陥落した中国戦線も膠着し、太平洋戦争となって、ハワイの奇襲・マレー沖海戦の勝利に、特別な一部の人たち

を除いて、多くの国民は挙げて有頂天になっていった。

敵性語(英語)や敵性スポーツ(英・米)は禁止された。

そんなある日、ある陸軍々人と話し合った折に、私は次のようなことをいった。

「今の勝利は相撲でいえば叩き込み、柔道では巴投げか一本背負い、剣道では小手が見事に決ったようなものであり、競技時間の極めて短い勝負である。これらとは反対に、イギリス人がプレーしているクリケット、ゴルフ、ラグビー、サッカーやテニス、またアメリカ人の発明したベースボールなどは、一本勝負ではなく、すべて競技時間が長い。バスケットやバレーボールも同様である。初めのうちは負けていても、辛抱強く努力しておれば大逆転もできる競技だ。1937年までに私は兵役とは関係なく、中華民国を4回旅行しているが、中国人の時間に対する観念は日本人よりも大変長い。だから彼らと話し合う時には、われわれの時間観念の尺度を変えてでなければ、お互に理解できない点が出てくる。だから中国人は勿論、イギリス人やアメリカ人も、この初戦で敗北したとは思っていない。日本人も思ったよりよくやるな、戦いはこれからだと思っているに違いない。

短い時間の競技でも、瞬間的に実力を出すためには常日頃からの余程の鍛練と精神の修養を必要とするところに意義があり、立派なものではある。野球でも個人的な一つの基本プレーを結集した上でチーム・プレーに徹する。しかし監督・コーチは試合中でも指導や指示をして、必要とあらば選手の交替も命ずる。ルールや試合運びが合理的にできている。これはバスケットやバレーも同じである。ウィンブルドン大会は1877年から始まったが、1880年頃に米国へ留学し日本人として最初に近代テニス(ローンテニス)をプレーした樺山愛輔は、日本の武士道とイギリス人のいうスポーツマンシップとは相通するものがあると後年語った。また相撲、柔道、剣道の指導者たちも相手をよく研究し、相手の動きをよく見ながらやれといっている。にもかかわらず、敵性語やスポーツを禁止するのは相手に対して眼を閉じるものではないのか。」

要するに私の主張したかったことは、今はスポーツどころではないことはよく解る。しかしスポーツにもそれぞれの特徴があり、長所もあることを考えねばならぬ。思想や文化についても同じことだ。各民族の異なる風俗習慣や文化をお互に常日頃から尊重すべきではないかというのであった。しかし敗戦後考えたことであるが、これは個人的にはなく、組織を作って話し合わなければ、何の力にもならないということであった。

北野中学では、有志の生徒30人~50人程度が毎年上海・南京方面か、旧満州地方(現在の東北地方)のどちらかの地方へ、交互に海外旅行を行っていたことが印象深い。幼い頃から、「チャンコロ」(中華人民共和国の人々には申し訳ないことだが)という侮蔑語を吹き込まれてきた日本人に、また中国大陸では日本人が種々な問題や事件を起こしていた折に、歴史的にも関係の深い隣国の中華民国を、若いうちに見学した方がよいとの江崎誠校長の先見の明と美新とはは畏敬の念を禁じ得ない。この旅行に同行された先生方には、大阪府から海外出張を命ずるとの辞令が出されていたとのことである。水鳥先生は1929年同行され、約2週間出張費は100円程度の手当てであったという。

以上は太平洋戦争勃発前後の3年間に亘る見聞であり、それ以前の旧い事については、水鳥先生の思い出話を参考にしたところが多い。日本の近代史と共に歩んで来た北野中学の60年に垂んとする歴史を、3年に集約して私の一身に将順したその伝統が、敗戦後の北野高校で30余年間、私の新しい教育理念の核となって来たのである。

#### 北野高校の男女共学と私

新制高校の内容は大きく変わった。その一つが男女共学であった。これは私にとって嬉しいことであった。それは、今後は女性の先生方や女子生徒を相手に、共に遊び共に学ぶことができ、またゆくり話し合い、女子卒業生も含めて多種多様な女性と広く長く交際できる機会が多くなり、女性を知るチャンスが増えたからである。

私たちの時代は男女共学ではなく、勤務した学校も男性ばかりで、勿論ガールフレンドもなく、テニスをしたり、近郊へ出かけたり、休み中には旅にも出たが男ばかりである。地理学を専攻したのは、自然と人間との相互関係や地域性を探り、地域差を追究することに興味を覚えたからであった。雨が降れば当時ではテニスもできないので、遅れがちな学習や研究を、教師になってからは教材の研究や整理をしなければならない。女性との交遊など殆んどあらゆる苦もない。

1947年(昭和22年)、大手前高等女学校高等科へ移って、初めて女性にとりかこまれ、驚きと共に女性を観察し始める喜びを味った。そして女性心理の一端も解り、女性を認識し、妻に対する考え方を悔い改めるようになり、更に男女共学になったお蔭でその感が深まった。今は私の老化が進み、妻は次第に日常なくてはならぬ存在となったが、逆にいえば私の操縦術が巧みになったのかも知れず、あるいは妻の方でも同じように考えているのかも知れない。いずれにしろ、ここ10年程前になって、ようやく妻という女性との心豊かな暮しができるようになったのである。私の男女共学の実態は今ようやく実りを得たというべきか。

女子生徒の増加に伴い、先ずは体育科に女の先生の出入りが多くなった。バレーボールの岡田(塚田)淑子先生、体操、バレーの吉岡(奥)美智子、故大前(山口)寿の両先生、続いて野々村(羽根)朝子、山根(石橋)尚美の両先生と、奈良の女子大からその多くが華やかに続いた。忘れ得ぬ人々である。

#### 北野高校のクラブ活動

教練・銃剣術・武道(剣道・柔道)、工作科・作業科などが正課から消えてゆき、職業軍人を退官して教員になっていた先生方も減り、体操科は体育科と改称されて、内容も変わった。平石亮三先生のグライダーも、もう淀川の河川敷を飛ぶことはなくなった。

これまでの部活動はクラブ活動となり、その部長には生徒がなって、自主的に運営するようになったが、クラブの成立条件は、先生の顧問就任の承諾であった。自由な運営ができるというので、新しいクラブが続々と誕生したが、運動クラブに比して文化クラブの数が多くなってゆくのが目立った。それは、教室などを利用し、比較的狭い場所で活動ができるということだけでなく、生徒たちに、新しい思想や社会への解放された自由な目覚めがあったからに外ならない。しかし青年の解放された欲求は、人類共通の運動(スポーツ)に親しむ心を盛り上げずにはいなかった。北野のグラウンドや体育館の広さは戦前と殆んど変わってはいなかったで、急激なクラブの増加に頭を悩まされた。明るい太陽と青い空、澄んだ水と豊かな緑とがそこあればいいというものでもなかった。

戦前の各運動部室は敗戦後、放火とも思われる不審火によって深夜消失した。体育館と木造の工作教室との間に、体育館の壁を利用して小屋掛けの部室があったが、これらも戦火に焼かれていた。といて新しく部室を建造する費用もない。そこで思い付いたのが生徒用練習場の改造と、戦前教練の一部に使用されていた旧狹窄射撃場(今日の生物教室の西側)の一部、旧体育館内やその南側の外壁の利用であった。

1948年(昭和23年)全国高等学校体育連盟が結成された。日本では戦前から、新聞社・大学・高校・高専などが主催する運動部や文化部の大会や試合が行われていた。占領軍がそれを不合理とし、高校教育関係者の手で、生徒が参加する大会を行えというので、その具体的なものとして連盟が誕生し、教育の一環としてスポーツを行うことになった。

教育の一環としてという建て前にも色々なニュアンスはあるだろうが、少くとも勝負本位のものではなく、プレー本位のスポーツで、可能な限り、経費も少くすべきであるということであろう。これはスポーツの原点である。そこに帰れといわれたスポーツの原点が、運動部精神として、戦前の北野中学にはすでにあった。戦雲の下、さればこそ凝縮された型で燃え続けていた、北野におけるスポーツ精神を、私は3年間一身に持順してきていた。4年間の空白を越え、日本の大変動を越えても、北野中学にあったこの原点を北野高校に移し替えて、そこに火を灯しさえすればよかつたのである。

生徒自身の選択によって入部したのであれば、自らのプレーをするだろう。自らのプレーとは物真似ではない。基本的な技術を身に着け、自らに直したフォームを作らねばならぬ。さりとしてプレーは独り相撲ではない。相手を見なければならぬ。相手に聞かねばならぬ。相手を読まねばならぬのである。「ゲーム」の語源は猿物である。ゲーム本位ということは勝負本位ということである。しかし、真のプレーなくして勝利はありえない。自ら持てるものの十全なる発揮・表現こそ真のプレーである。スポーツとは自己実現の場であり、それはグラウンドだけのことでなく、教室に、家庭に、社会に通ずるものである。北野中学から北野高校へ、この原点はクラブ活動を指導されている先生方によって継承されていった。

新しいクラブが成立する時には生徒が先生に顧問を依頼しに来る。ところが高体連の規約が整備されてくると、試合や大会には必ず顧問が付添わねばならなくなってきた。試合が重なり、先生の都合で当日会場へ行けなくなるなど代理の顧問が必要になってくる。代体など勿論ない。試合や大会は主として土・日に行われるので、付添い顧問の勤務は二週間無休ということになる。生徒の依頼だけで顧問を決めると顧問が偏り、負担過重となる恐れがあるので、昭和40年までには、ほぼ全員が少くとも運動部・文化部をそれぞれ一つずつは担当するようになり、各部複数の顧問を持つようになった。しかしまだ、教科活動の上に加重されてくる負担は、完全には軽減されていない。

1955年(昭和30年)前後で体育科以外の、私の記憶に残る顧問の先生方には次のような顔ぶれがある。戦前戦後を通じて英語の水鳥喜平先生の登山、同じ登山では数学の石田千代の輔先生、英語の島内義一郎先生は卓球、英語科では河原剛先生のバレーボール、伏谷峰英先生の剣道、国語科では、かつて自らインターミドルで優勝し、四段であった、現京大人文研所長福永光司先生の柔道、田上泰昭先生の水泳、物理科西田駿夫先生は野球、日本史の錦田真和先生はサッカー、数学の博本正和先生・生物の岡田裕士先生はラグビー、書道の阿部俊一先生は合気道など多彩であった。なお体育科の野々村博先生はラグビーの国際審判員であり、レフェリーとして日本の第一人者といえよう。

一方なるべく全生徒が参加し、全先生の指導、協力を得て実施される戦前からの行事もなお引き継がれてきた。体育大会、50米プールを持つ強味での水泳大会は午後2日間を使って行い、昭和31年まで行われていた池田市から学校までの駅伝競走は道路交通事情の悪化で廃止になったが、淀川堤防での駅伝競走はまだ続いている。学制改革で兄弟校となった大手前高との交歓試合が4・5年前までは実施されていた。希

望者による登山、体育科の稲葉(田中)憲一郎先生を中心とした民宿でのスキーなども30年代までは行われていたが、学校内外の状況が錯雑して来た今日では、発展的にか、衰退的にかというべきか、行われ難くなってきた。

以上のように1948年から発足した運動クラブ活動は文化クラブも含めて徐々に変化してきた。それがいつの頃からかは判然としないが、発行責任者藤尾直正先生(国語科)の「六稜新聞」1966年2月26日号に「クラブ調査 案外高い加入率50%弱 最大の悩みは予算不足」との見出しで調査記事が載っている。そこにクラブ活動には意義有りとしながら、現状には悲観的見解を示しているという職員室での先生方からの聞き込み記事があるのは見逃せない。1960年を境に、その後の20年は、それ以前の戦争・敗北の中に含んだ戦中・戦後の20年よりも、あるいは大きな変動を若者たちの間にもたらしているのかも知れない。戦雲によっても見失われなかった北野のプレーヤーとしての精神的原点が、最近20年間の恐るべき平和発展の中で変貌・衰微しつつあるとすれば、それは一体何故なのか、「六稜新聞」はその兆候を目眩く示唆していたことになる。

#### 図書館の整備を結びに

北野には百年前からの書籍、公文書、各種会議録など数々の貴重な蔵書がある。戦争の混乱もあり、その後も復興に多忙なため、この貴重な多数の資料が旧図書館、倉庫、旧職員図書室(現在の指導室)などに分散され、未整理のまま放置されていた。錦田真和先生(日本史)が図書館主任になられてから、これらを一箇所に集めて整理に手をつけられ、それまでの図書館の慣習などを改革された。山根為雄先生(国語科)も手伝われ、百周年を記念して完成した新図書館内部の閲覧室・書庫などの内部構造は、両先生が図書館辞典や種々の研究書を参考にして作成された意見書により校長が承認し、今日のようなものになったのだという。あの新新で近代的な落着きを持った読書活動の場が名実共に保障されたのである。

体力の発育は20歳まで、脳の老化は35歳からという生理学者もいる。教室や運動・文化クラブでも体得できない、ラジオ・テレビ・新聞などにも発見できない、生徒ら一人一人の脳中に広がる世界を拡大させるための貴重な蔵書が北野高校図書館には豊富に眠っている。昭和17年以後のプールは改装され、旧体育館・武道場も大きな近代的体育館に改築された。ようやく戦後35年有余にして、施設・設備は、校舎本館の、50年を経た重厚な姿を残しながら、それなりに完備してきている。しかし、教練・武道・作業がなくなり、部活動がクラブ活動に変わって復興の先導となった文化クラブが、いつの頃からかを境にして、衰微し始め、クラブは再び部となり、ゆとりある教育というスローガンで奉仕の精神が強調されてきつつある。北野中学から北野高校へ、激動の時代を経てきたものもなかったものを見て来た私は、この豊かな太平の時代に、かつて及びもつかなかった変貌が起きているのを感じる。日本丸が世界の激流の中で離脱する日は近いのではないかと私の老懐心は危惧するのである。

#### はせがわかんじ先生略歴

明治37年大阪市高麗橋で御出生。北大子科、京大文学部卒。旧制愛知一中を経て、昭和15年から18年まで本校教諭。旧制浪高専常科、大手前高女高等科と転じ、昭和23年再び本校へ。昭和54年御退職。その間、大阪市大で人文地理学非常勤講師。

日本学生庭球連盟顧問、全国高体連庭球部名誉会長。日本代表庭球選手団々長監督として、インドネシア、中国、韓国、イランへ海外遠征4回。日本テニス協会顧問。



# 幽想

題字 阿部隆一先生

## わたつみの頃

八木彰一郎 (62期 会社役員)

「わたつみ」といっても萬葉集に関係ありません。又、戦没学徒兵の手記「きけわたつみの声」でもありません。昭和23年、旧制北野中学が新制北野高校と変った当時、その北野高校の一隅で発行された、ガリ版ずりのささやかな文芸雑誌「わたつみ」、そして24年1月、武田尾で謎の服毒自殺を遂げた二人の同人、K・Yの思い出話であります。

丹波哲郎著「死者の書」を読まれましたか。ニアデス——死にかけて生き返った人——が年間 200人もおるそうで、その人達の手記を中心にかきました死後の世界が熱っぽく描かれている。死後の魂の存在は昔から永らく議論の対象とされ18世紀のイマヌエル・カントは、神の存在、靈魂の不滅、意思自由の三つを道徳律が絶対的命命たり得るための要請(条件)として挙げた。たまたま今年5月朝日新聞で、宗教心と日本人というテーマの世論調査があり、

|           |     |
|-----------|-----|
| 死後の魂はある   | 60% |
| 死後の魂はない   | 30% |
| どちらとも言えない | 10% |

となっていて、日本人合理主義説の私にはやや意外の感があった。

これに関する一つのデータを私はもっている。三十数年前(北高生時代)、友人Kと私は議論の末、お互にどちらか先に死んだ方が生きている方へ、取れるなら必ず連絡を取ろうとかたく約束した。ところがそのKとYが一年後不幸にも自殺を執行してしまった。さて今か今かと連絡を待ったが全然それらしいものはない、今日に至るまで。Kが生きていた時の思い出は夢に出るが、死後といういわばお化けの映像は片鱗もない。従って、

1. 死後の魂は全く存在しないか

2. 存在するが、生きている我々には絶対連絡できないのいづれかである、と結論する。又、

3. Kが死ぬ時に、私との約束を全く忘れてしまったという可能性もなくはない(データ量を豊富にするため、今後も私は同じような約束を私より早く死ぬ確率の多い人と取り付けようと思っております)。

K・Yの死後半年間に、わたつみ会とは無関係ながら在高校の自殺が二回も続き、マスコミは今も昔も同じ事で北野高校生連続自殺事件として俄然騒ぎ出し、学校へも取材に来て担任の先生方に非常な脚心配離惑をおかけた。脚自宅でスキ焼を御馳走になり、自殺の無意味をコンコンと論されたK先生のお姿が今も目に浮かぶ。当時は「先生なんか何に分かるか」と昂然としていた自分達が今恥かしく、深く頭を下げてお詫びしたい気持で一杯である。

人間社会はいわばロータリー・ライオンズクラブのようなもので、一生懸命奉仕活動している会員もおれば、義理で又はホビーで付合っている人もいる。しかしどの会員も最低限例会に五割出席しないとクラブは成り立たない。人生もそれと同じで生き方はさまざまでよいが、生きる価値を認めようと認めまいととにかく自殺されては困る。人生の義務出席であると私は考える。但し、36才で死んだ芥川龍之介と、過屈に百才まで長生きした無名の老人と、どちらの人生が充実しているかはそれこそ主観の問題である。

今の私に死ぬ予定は全然ないが、もし死ぬ必要に迫られたら彼等のようにカルモチン少量服用による凍死は、きれいな

(そして楽な)最良の自殺方法であると思う。睡眠薬を致死量まで飲むのは苦しいし死体が乱れて醜い。第一大量に買い求めるのは金がかかる。熟睡する程度に軽く飲んで真冬の野外で眠ってしまえば、人に発見されない限り確実に苦しみなく凍死する。

大体、自殺の原因は相撲の取り口のようなもので、多くの技がからみ合っているときれるが、決まり手は何か?

第一、長い受験勉強の重圧——私達は四修で旧制高校を受験する最後のチャンスがあり、それに失敗して新制北野高校へなだれこんできた。その時の挫折感、高2といっても一浪の雰囲気であった。我々62期の前後は北野で6年間お世話になり、母校と縁が深いとよく言われるが、それはのんびんだらりとした6年ではない。極論すれば本科4年プラス補習科2年の感じ(この感じは63、64期の人には分らない)で、中4から高2へは不連続な断層があった。だから62期はえらいというわけではありません。ただ、そういう事実の重みをかみしめるのみです。受験競争の激しさは今も変わらないが、今は外野(親やマスコミ)が騒いでいるので、主観的にはむしろ三十年前の方が厳しかったのではなからうか。

第二は、女性問題である。石坂洋次郎「青い山脈」の時代、ある日突然大手前高女との男女共学が始まった。しかも我々の学年は希望者だけの交流で、やって来た勇敢な女性も4人。御馳走の匂いがかがしてもらっただけ。それでも進歩的分子?は積極的に下級生の異性にアタックしたようだが、意気地のない私達は突然訪れた解放感とそれについて行けないもどかしさで、一種のフラストレーションに陥っていた。もしK・Yの死を喰い止める事が可能であったとすれば、その鍵は我々同性の友人でなく、特定の二人の異性にぎっていた。

第三は、砂糖の取りすぎである。突飛なようだが、Yの日記をみると就寝は大抵午前1時か2時、夜食に甘い菓子を食べ甘いコーヒーを二杯三杯と飲む。当時ようやく戦後の復興期で甘いものが出回りかけていた。その砂糖の取りすぎから神経衰弱になった、とはYのお見さんの説である。

第四は、これは大風呂敷をひろげた言い方になるが、昭和23、24年という被占領時代末期の社会風潮である。松本清張の「日本の黒い霧」に詳しいが、下山、三鷹、松川事件という鉄道に關した三大不可解事件がヶ月半の間に次々に発生し、今日に至るまで迷宮入りである。キャノン少佐という当時の関係者らしき人も今年死んだそうで、このままでは永久に歴史の謎となる危険がある。しかし清張の説は推理小説としてトリックは面白いが、論議が薄弱すぎる。帝銀事件を含め大体何でも米軍の犯行とは一寸信じられない。客観情勢の分析の筆は確かだが、当時の米軍は絶対権力者であり、欲すればあんな姑息な手段を使わなくとも目的は十分達せられたはずと思う。

昭和史における著名な文学者の自殺は三つある。昭和2年の芥川龍之介、昭和23年の太宰治、昭和45年の三島由紀夫。最初の芥川の死は「幽車」に将来の凄然たる不安と書かれ、昭和初期の不景気、金融恐慌からファシズム、戦争への道を予感したといわれる。第二の太宰の死は戦争の混乱から復興へ、米占領軍の右旋回、ドッジラインにデフレ、朝鮮戦争へと至る暗いドロドロとした世相の反映である。第三の三島の割腹死は万国博の年、高度成長時代の終焉、新右翼の抬頭を告げるにふさわしい出来事である。

そして我がわたつみの時代は、この第二の太宰治の時代であった。人間失格、生れて来てすみません、サヨナラだけが人生だ、グッドバイ……

この痛切な言葉の断片にオーバーラップして、武田尾で眠るように死んだ我が親友の面影が今も目に浮かぶのである。

# 北野中学校建設当時の回想

西田 勇

50年前の北野中学校の敷地は、現校舎の前庭が葎や茅の生茂った沼地で、現校舎付近から奥の方へ小高くなった畑地であった。

丁度、今の正面玄関ホール辺りの基礎掘り中、人間の頭骸骨が四、五、若干の骨と共に出土したので、坊さんと呼んで供養したのを覚えている。昔の「仕置場」との説もあったが、真偽の程は不明であった。

その頃、大阪府の営繕課に勤める私は、丁度曾根崎警察署の工事を終えたところであった。八木課長より、北野中学校の設計を担当するよう命ぜられ、意気込んで図板に向ったのを思い出す。

当時の建築界は、従来の様式建築から脱して、合理化、近代化への道を歩み始めたところであった。ヨーロッパで起った近代建築運動が、日本にも広く影響を及ぼし、我々の心を抱えたのもこの頃であった。

私達の設計活動も海外の建築雑誌や書物に次々と紹介される近代建築に刺激をうけて、一層の励みを感じたものである。当然のことのように、この学校の建築も、外国建築の影響を濃くうける結果となった。

本屋通いの末、手に入れた洋書は大変に高価で、普通なら貧弱な役人の手のとどく代物ではなかったが、これを参考にしてみたいと構想を練ったものであった。結局、当時注目のオランダの建築家ドユドックの学校建築に啓発されて案がまとまり、本設計を進めて行った。設計に約半年かかり、内務省の起債の認可を待って入札。工事は清水組(現清水建設)に決定。いよいよ現場監督として、4人の同僚と共に常駐することとなった。

その頃の十三大橋は木造で、鉄桁の上に床板を張り上を盛った上橋であった。麻袋入りセメント、樽詰めの釘、鉄筋、木材等、工事用資材はすべて、この長い長い橋を渡って荷馬車で運ばれた。確か、この橋のたもとには、焼餅を売る茶店があったように記憶する。

コンクリート打ちの頃は、暑い夏の盛りであった。炎天下、毎日毎日、作業員に混じって、汗まみれになりながら、コンクリートをつつくのが仕事であった。現在の生コンによる打設法とは違い、ミキサーで練り上げたコンクリートを、一旦タワー上に揚げて、更にホッパーから桶を伝って流し込むという幼稚な方法とあって、晝下りの静寂を破って、ザアザアとコンクリートの流れ落ちる単調なくりかえしは、眠気を催す程ののどかさを感じさせたものである。

このように悠長な施工法ではあったが、次第に工事は進み、1階、2階、3階と躯体は姿を現わして行った。

現場は可から大分遠い野中の一軒家であったから、晝食は飯盒三つで自炊、熱々の飯をフーフーさしながら、五人で頬張ったものである。副食は、時々十三の公設市場で仕入れてきた塩鮭、干物、梅干等であった。おかずは粗末でも、すき腹に飯盒飯のうまさば、何よりのご馳走であった。

このような毎日が一年何ヶ月間続いた。私を除く4人は既に故人となってしまったが、その時の光景が、今も一人一人の面影と共に懐かしく浮かび上ってくる。

北野中学校建設当時は民政党内閣で、建築資材も工費も安く、この学校にとってはこの上ない幸いであった。

一足違いに相ついで計画された今宮中学校の場合は、遅遅と、設計が完了、起債申請中に内閣が変わって(政友会に)、工事費が暴騰、程度を下げるため、北野とほぼ同様の仕上げも、使所以外のタイルは内外共使用できず、設計変更を余儀

なくされる結果となってしまった。又、この工事には、割当てられた失業者の使用を強制される等、思わぬ事態に戸惑ったのが印象に残っている。

それに引きかえ、北野中学校では、外部を全面タイル貼りにする等、当時の学校建築としてはあまり例のない豪華な仕上げとすることができた。

設計上、特に狙ったことといっていないのだが、内外仕上げ共、タイルをふんだんに使用した点が特徴といえはいる。

勿論、耐久性を考慮してのことではあったが、無味乾燥になりがちな学校建築に少しでもうるおいを、との願いからでもあった。

校舎階段室、内部腰部分共タイルを用い、特に玄関ホールは二階まで吹抜き、全面彫刻タイル貼りである。

講堂床には、ステージ部分より後方に向けて傾斜をつけ、背面出入口は、玄関正面階段の踊場を利用して出入りするという新しい試みとし、その階段の蹴込みには、京都五條坂の宇野焼美術タイルを使用した贅沢な仕上げとした。

外部タイルは大阪窯業平坂工場焼き。見本焼きが焼き上ると現地平坂に出向き、外部に並べて検査、承認して使用した。手造りならではの色むらや凹凸が、かえって味わいを深くし、建物を引き立てたように思われる。

次に、失敗例を二、三あげると、塔屋上部に始業、終業を告げるサイレンを取り付けたが、校内にはよく聞こえず、遠方で聞こえるという皮肉な結果になったこと。

講堂ができ上ってから反響の多いことに気付कि、心配のあまり、早稲田大学教授の佐藤武夫氏に指示を求めたところ、中野勉氏(先生の弟子)より数個所の指摘があったが、一旦、生徒が入場し、演壇より先生が話された時には何の支障もなく安堵したこと。

講堂の屋根上に野球のボールが飛び、鉄板葺き屋根の鈎が離れ、雨漏りして困るとの苦情がでたこと等が思い出される。

他に先端的な試みの一つとして、暖房設備に重油焚きラジエーターによる放熱式の蒸気暖房を採用。当時一般石炭ストーブ時代に、この方式は、府立学校としては画期的事業であったように思う。ボイラー室には講堂床下を利用、工事は須賀商會に依頼した。費用は当時で確か5万円位。但し、府の予算外のため、同窓会(後援会)から寄付を募ることになり、当時各界で活躍中の卒業生の某医学博士、某海軍中佐、その他有名実業家の方々か世話人となって尽力された。この方達の風貌ははっきり憶えているが、お名前が出てこない。

校舎の落成後、生徒会館が新設されたが、これも同窓会の募金によるものであった。そして、これを設計中に、同窓会の世話人の方々から、淀屋橋近くの「風月」に招待され、洋食のフルコースをご馳走になったのである。貧乏役人の私達にとって、これは望外の喜びであり、感激したのを忘れることができない。

とにかく、一流の社会人を輩出して名門校と評された北野中学校の設計と監理に従事し、完成を見た時の喜びは一しお深いものであった。当時の校長は江崎さんであったと思う。

この後、戦争で大阪を離れることになり、戦後に設計事務所を開設、高度成長期を経て現在に至るまでの間、無我夢中で過ごして来て、昔を振り返る余裕もなかったが、今こうして、私の60年余の設計活動を振り返る時、大阪府時代(戦前の15年間)程、恵まれた時期はなかった、とつくづく思う。よき上司、よき同僚、又よき仕事と、恵まれた環境と条件の中で建築の仕事にたずさわることができて幸せであった。

ここに、古きよき時代を回想する機会を得たことに心から感謝し、神の御恵みを心に深く思う次第である。(50回生三田要之夫氏の御紹介でこの玉稿を頂戴できました一編纂部)

## 期別通信可能者数と55年度年会費払込者数

(ただし、55年度の年会費は88回・50年卒業生以降は不要)

| 卒 回   | 年 度     | 通信可能者数 | 累 計  | 年会費納入者 | 卒 回 | 年 度   | 通信可能者数 | 累 計   | 年会費納入者 |
|-------|---------|--------|------|--------|-----|-------|--------|-------|--------|
| ～21まで | ～明治41まで | 13     | 13   | —      | 58  | 昭和 20 | 238    | 3615  | 46     |
| 22    | 明治42    | 3      | 16   | 1      | 59  | 昭和20四 | 204    | 3819  | 47     |
| 23    | 43      | 5      | 21   | —      | 60  | 22    | 240    | 4059  | 47     |
| 24    | 44      | 12     | 33   | —      | 61  | 23 24 | 281    | 4320  | 54     |
| 25    | 45      | 10     | 43   | 3      | 62  | 24 25 | 276    | 4596  | 56     |
| 26    | 大正 2    | 15     | 58   | 7      | 63  | 26    | 425    | 5021  | 65     |
| 27    | 3       | 13     | 71   | 2      | 64  | 27    | 383    | 5404  | 87     |
| 28    | 4       | 24     | 95   | 4      | 65  | 28    | 368    | 5772  | 93     |
| 29    | 5       | 19     | 114  | 6      | 66  | 29    | 350    | 6122  | 87     |
| 30    | 6       | 21     | 135  | 6      | 67  | 30    | 344    | 6466  | 60     |
| 31    | 7       | 30     | 165  | 7      | 68  | 31    | 322    | 6788  | 65     |
| 32    | 8       | 36     | 201  | 8      | 69  | 32    | 364    | 7152  | 53     |
| 33    | 9       | 54     | 255  | 13     | 70  | 33    | 440    | 7592  | 77     |
| 34    | 10      | 34     | 289  | 17     | 71  | 34    | 383    | 7975  | 79     |
| 35    | 11      | 42     | 331  | 7      | 72  | 35    | 370    | 8345  | 34     |
| 36    | 12      | 46     | 377  | 12     | 73  | 36    | 417    | 8762  | 46     |
| 37    | 13      | 59     | 436  | 22     | 74  | 37    | 348    | 9110  | 43     |
| 38    | 14      | 61     | 497  | 25     | 75  | 38    | 288    | 9398  | 32     |
| 39    | 15      | 94     | 591  | 35     | 76  | 39    | 279    | 9677  | 28     |
| 40    | 昭和 2    | 96     | 687  | 34     | 77  | 40    | 327    | 10004 | 26     |
| 41    | 3       | 88     | 775  | 49     | 78  | 41    | 412    | 10416 | 47     |
| 42    | 4       | 100    | 875  | 44     | 79  | 42    | 345    | 10761 | 30     |
| 43    | 5       | 124    | 999  | 42     | 80  | 43    | 394    | 11155 | 43     |
| 44    | 6       | 120    | 1119 | 49     | 81  | 44    | 390    | 11545 | 36     |
| 45    | 7       | 157    | 1276 | 63     | 82  | 45    | 371    | 11916 | 36     |
| 46    | 8       | 133    | 1409 | 40     | 83  | 46    | 380    | 12296 | 39     |
| 47    | 9       | 141    | 1550 | 69     | 84  | 47    | 383    | 12679 | 45     |
| 48    | 10      | 145    | 1695 | 60     | 85  | 48    | 432    | 13111 | 34     |
| 49    | 11      | 157    | 1852 | 56     | 86  | 49    | 411    | 13522 | 45     |
| 50    | 12      | 165    | 2017 | 56     | 87  | 50    | 367    | 13889 | 51     |
| 51    | 13      | 149    | 2166 | 44     | 88  | 51    | 420    | 14309 | —      |
| 52    | 14      | 181    | 2347 | 60     | 89  | 52    | 419    | 14728 | 1      |
| 53    | 15      | 214    | 2561 | 58     | 90  | 53    | 429    | 15157 | 1      |
| 54    | 16      | 154    | 2715 | 35     | 91  | 54    | 431    | 15588 | —      |
| 55    | 17      | 206    | 2921 | 54     | 92  | 55    | 460    | 16048 | 4      |
| 56    | 18      | 210    | 3131 | 63     | 93  | 56    | 464    | 16512 | —      |
| 57    | 19      | 246    | 3377 | 71     | 計   | —     | —      | 16512 | 2,662  |

(注) 上記の数字は一応年度の理事各位に確認していただいた数字ですが、誤りがあるかもしれません。年会費については5月末現在です。尚、振込んでいただきながら卒回・氏名等ははっきりせず、不明扱いの分も若干あります。あらかじめご了承ください。

# 六稜同窓会だより

## 大五会 (29回 大5)

### 会の現状

会員は八十二歳以上ですから、いろいろの会会で司会者から乾杯の音頭を頼まれますので声張り上げ、嬉しい事です。阪神在住の会員で例会の常連は年毎に減り現在八名、年に三回二・六・十月の集いは心なごむ楽しい会合です。

### 記念出版

昭和四十一年四月十五日京都の例会で二十七名集まりその席で、卒業五十周年に当たりますので記念として、隨筆に写真入りの「卒業五十周年」の出版が決定しました。

爾後機会を捉えて三冊出版し本年は晩年の生活を記述した「老いの日に」を出版しました。これが最後の隨筆集となりますので、今回は特に逝去された方の御遺族から故人の在りし日を記述して載せ「しのび」と題して加えました。

### 新春の集い

年三回の例会の一つ・二月に在阪神の同期生七名参集。高齢期に入り、お互に八十二・三歳、病床の方が五名。それで、生き残りの者が「老いの日に」を執筆、出版決定し、関係者に通知し賛成を得ました。

最近逝去された、御遺族お三人からも玉稿を戴きました。現在原稿は十通集まり、近日に心易い印刷会社に依頼。大五会は今日までに、「卒業五十周年記念」から始まり最近では「老の戯言」と合計五巻発行し、我が家の二代・三代目一人の祖父のありし日の事を残しました。

### 秋の集い

大正五年卒業の阪神在住者「我等の仲間」は毎年二月六月十月と年三回例会を催しています。

秋の例会、十月六日大江橋畔の料亭うおまんで、元気な七名が集り談話が限りなく続きました。今回は久しぶりに京都で日曜りの集會にして、芝草次郎君が準備に当る事。

六稜同窓会総会、十月九日、この日は八月十六日発行の六稜会報で知り、仲々待ち遠しい十月でした。出席は草間買一兄・能見清一郎兄と私の三人だけ。三人とも丁度八十三歳でしたから「喜ばれる老人」となる事を誓いました。

晩餐会の時には、一年振りであつたかしい数名の方にもお目にかかり喜びでありました。

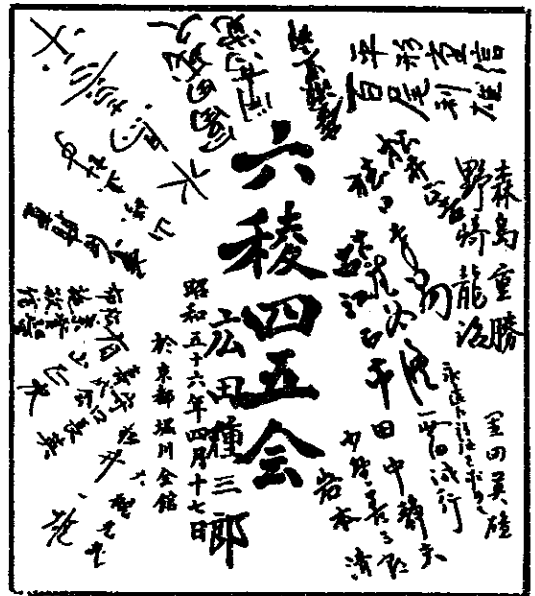
「六稜魂」と染め抜いた手拭を受付で貰ったので、ポケットに入れて、八時半すぎ楽しかった会場・堂ビル清文社をあとに地下鉄淀屋橋駅に向いました。(栗阪原健三)

## 六稜三七会便り

我々は37回(大正13年)の卒業生で、いづれも、明治・大正・昭和と生きて来た者達である。現在通信可能のもの60名。本年は5月23日船場吉野寿司で昼食会を開いたが、この会合の世話人である前野君が、案内の往復はがきを発送した数日後に急逝するという事態が起った。23日当日は東京から高木君、岐阜から百瀬君ら合計23名が集ったが、期せずして前野君を偲ぶ会となった。

唯一名脚健在の恩師である、保田先生が御老齢のため出席願えなかったのは淋しかった。本年は2月以来、小西莊治、山田俊三、前野善藏、小米田幸生、新井実の5君が他界せられた。山田君と北野で親しかった中原茂敏君が7月に原書房から「大東亜補給戦」を出版した。中原君は北野から、士官学校、砲工学科、東大工学部へ進み、陸軍省軍務局に勤務し、終戦の時は中部軍参謀であった。「北野」では珍らしい存在であると思う。

今春には「六稜三七会便り」第7号を発行出来たが、今後ともこの会誌も続け、また毎年1回は、みんな元気で集れるよう念願している。(大阪・嘉悦新一)



# 株式会社 鴻池組

取締役社長 鴻池 藤一

本社 大阪市東区北久宝寺町四丁目二七番地 電話 06-244-3545

支店 大阪・東京・名古屋・広島・福岡・松江・仙台・札幌・鹿児島

## 六稜四五会報告

昭和55年11月27日、秋季懇親会を大阪、桜橋の「北京」にて、広田、水島両先生御出席のもとに開催。遠く山陰から竹本君、東京から松葉君出席、同君から東京組の消息報告あり、久しく会わぬ諸兄の健在を喜ぶ。歓談久しく、いつか老人病対策に同窓医師の助言をおおく始末、宴たけなわ、古座谷君のハーモニカ独演あり、しばし童心にかえる。この日は18名。

さて、本番の56年総会は4月17日 京都堀川会館に於て開催。水島、広田両先生、相変わらずの御壮健な御姿をお見せ下さる。出席会員（敬称略）は次の通り

有山・植田・大概・開高・古座谷・里田・富田・広瀬・布施・古江・松井正・松井一・松葉・山崎・百尾・兼田・平形・守口・田中・小野・西田・岩本・松本・野崎・森島 以上25名。

翌18日は京都御所参観。この行事は我等二年生のとき、御即位の大札あり、そのあとを学校から一同拝観に行った思い出あり、来年卒業50周年記念に当り懐古の一環としようとの計画にもとづいたものである。

4月に入って連日の低温、なたね梅雨、加えて私鉄スト、国鉄運賃の値上げと、障害多く心配の連続であった。

当日は快晴、気温は上昇、私鉄スト解除、運賃値上げは20日からと、心配事すべて吹飛び、何という幸運 天我に味方すと全員快哉を叫ぶ。

御所の樹々も緑まし、おそ桜もチラホラ散りそめる風情の中、紫宸殿の前に佇むと、50年前の記憶が蘇みがえって来た。外国元首が来日するとき必ず、消遊される「御池庭」宮人たちが優雅に「曲水の宴」を楽しんだ「流れ庭」は、特に印象深く、夫々記念撮影にはしゃぐこと一しきり。この日は特別参観の申込みを許可されたものであったので小人数が静かに心ゆくばかり参観できた。外苑の満開おそ桜の前で六稜四五会員各位の健康を祈り、来50周年に再会を約して万才を三唱。思い思いのグループに別れて、春の京都散策に向う。

来年の卒業50周年行事については東京組と合流、盛大に出来るだけ多くの参加を得ようと、次期幹事に田中静夫、守口長英、大概光武、藤田保彦の四君をお願いいたしました。

幹事 野崎、森島 (56. 5. 17)



(四五会・御所にて)

## 入学50年記念修学旅行

四九会 (昭和11年卒)

毎年の会合、2年毎の宿泊旅行として、今年は北野中学入学(昭和6年)以来丁度50年と云うことで、土屋、植村両先生引率(名目的に)のもとに伊勢、鳥羽へ一泊で修学旅行。

本年度幹事 神戸製鋼常務 小笠原彰佑君と日立造船エンジニアリング重役 松分富左右良君の計画と現地の伊勢湾フェリー社長(元運輸政務次官) 中野大君と交渉の結果4月18日(土)宇治山田午後2時集合、東京組と合流、観光バスにて伊勢神宮参拝、伊勢志摩スカイラインを通過して夕刻鳥羽国民宿舎「あらみ荘」に到着、一風呂浴びて大広間にて宴を開く、伊勢湾フェリーよりの社をあげてのサービスで盛大なる宴となる。宴終り麻雀組、談笑組に分かれ夜の更けるのも忘れる。

翌日はゴルフ組と観光組に分かれる。

ブラジル丸見学、水族館見学、御木本パールアイランドの貴賓室で海女の表演を見る。

同日はニュージーランド首相ご夫妻も同じコースをご旅行、昼頃より雨強くなる。

東京組は伊勢湾フェリーにて伊良湖迄送ってもらい、豊橋経由にて東京へ。

大阪組は近鉄にて両先生と楽しく語りながら2時帰途につく。

参加人員 32名

記 中村 弘

## 第六三期総会の報告

六稜第63期(昭和26年卒)は、総会を6月6日大阪・大林ビル・ボンドシェールで開催した。卒業30周年にあたるので北海道・東京・九州をはじめ各地から、実に170人をこえる同窓生が馳せ参じ、原、零石、清田、眞田、葛西、平石、中島、稲葉、兼岡、梅沢(井上)の各先生のご出席を得て、さしもの広い会場も人いきれで充満する非常な盛会となった。

原先生をはじめ各先生方からこの期は終戦の年昭和20年に無試験で入学し、新制高校の発足時には男女共学の第1号となり、いやがる女子生徒をむりやり北野へ連れてきたことなど当時の混乱期にまつわる昔話や、はじめて男子校の北野へ移ってこられた女の先生方の当時の大変な苦勞話のご披露があった。

集まった仲間はや、くたびれの見えはじめた顔に昔のおもかげを見つけては30年の隔りを一挙にふきとばし、お互いの肩を叩き合って往時の話に花を咲かせ、往年の美少年(女)が30年経てばどういふ変貌をよげるかという壮大な実験(?)はかくて盛況のうちに終了した。

たまたま62期会が奇しくも同じ建物、同じ時間に開催されていたので、隣り合った両期が旧交を暖め合う姿が見られたことも予期せぬ収穫であった。(徳永記)

ゴルフ場のエントリー専用 (コース150ヶ所)

阪神百貨店6階

## 阪神ゴルフガイドコーナー

藤田 政 江 (昭和28年卒)

コーナー専用電話 (06)341-2345・5566

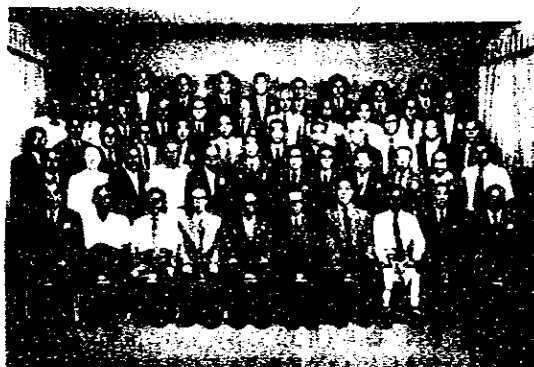
(水 曜 日 定 休)

## 六稜五一会還暦記念大会開かる

一 五五・九・六 於東洋ホテル

六稜五一会は昭和五十五年九月六日(土)還暦記念大会と銘打って東洋ホテルで盛大に開催された。五十三年秋の卒業四十回記念大会から二年目のことである。当日は旧師七名、会員は東京その他からの参加を加えて五十四名に達した。定刻四時前から三々五々馳けつける会員達は次第に会場を埋めたが、開会に先立ちホテルの写真室で本式の記念撮影を行う。さすがに結婚式用の本格写真の出来ばえはすばらしく後に出席者を喜ばせた。

会中は沢田俊雄君(博多都ホテル)の開会の辞に始まり終始同君の絶妙の司会で進められた。物故会員への黙祷に続いて世話人を代表して石津一貫君(石津製菓)は歓迎の挨拶を行い会員の動静を伝えた。現在世話人が動静を掌握している会員は一五五名、不明四七名、物故者八二名となっていて不明者を除いて名簿は完備されている。次いで旧師を代表して広田先



(五一会・於東洋ホテル)

生が本年傘寿とも思えない相変らずのお元気で若い者(?)達を激励された。buffet方式での宴席ではあちこちに人の輪が作られお互いに久闊を敘しながらの談話が続いた。宴半ば司会者の指名で東京から来阪した野木貞雄(チッ)池浦次郎(神戸製鋼)横山浩雄(飛島建設)らの諸君が元気に近況を報告した。又小林先生は「十三」の地名の由来など即席のスピーチをされた。次いで辻達雄(大成建設)は、「今後五一会は毎年九月初めの土曜日東洋ホテルで行うことを原則としたい」という世話人会の意向を提案したところ全会員は之に拍手をもって賛意を表した。

談話の輪はいつまでも続いたが、やがて定刻が近づき本郷崇基君(大榮商事)の音頭で校歌斉唱、ついで同君が「お互に健康に留意して来年も又元気に会おう」と閉会の辞をのべた。参加者は名残りを惜しみつつ加藤貞興君(東洋ホテル)心尽しの「十三のやきもち」をお土産に初秋の夜の街へと散会した。こうして五一会は盛會裡に終わったが、毎回この会で色々と演出に苦心し殊に応援歌の音頭をとって会を盛り上げてくれた世話人多羅尾善之君(協成ハヤキ工業)が病の為欠席したことは一抹の淋しさを皆の心に残した(同君は会のあと間もなく九月十二日逝去された。謹んで哀悼の意を表す)。最後になったが会場の設営その他多くの配慮を煩わした加藤君に心からお礼を申しあげる。

(辻達雄記)

## 理事 故住島綱一君を偲ぶ

四八会 平 浩 平

住島君死亡!! 今から考えるとそれはあつという間の出来事でした。彼の病気を知り高槻の医大病院を訪ねたのは1月21日、寒い日であったのと、こんな事は直接には関係ないのですが、大相撲の千代の富士が破竹の11連勝を飾った日で記憶に残っています。1ヶ月前に忘年会で元気を彼と会っていただけに、異様な程の憔悴ぶりに驚きました。

彼の病室は個室でしたが、聞けば同じ病棟に胃癌手術(彼はそう信じていた)の貞子夫人2人の看護をするのは次女良子さんと初産の妊娠8ヶ月、長女節子さんは東京在住で幼い2人の女の子がある上に、義父が入院という悪条件が重なっているとの事でした。此は「放っておけない」と感じたのは私だけでせうか。

勤務先からの帰途、週に一回は自然に足が高槻の病院に向うようになりました。

「そんな馬鹿なことがあってよいものか、夫婦で旧婚旅行を楽しむなら判るが、同じ病棟に入るなんて……」と呟きながら。此は学校卒業と同時に「戦争」という悲劇に有無を云はせず突入させられ、不幸にも戦死したもの、生きても「敗戦」というショックの中で生き抜かざるを得なかった「大正生れ」の人間の共通の憤りではなかったでせうか。

そして何回目かの訪問で更に驚くことが判明しました。同期の中村透朗先生(御承知の通りの癌の権威者)と病室で会いました。中村先生は数年前に胃を痛めた住島君の執刀者でもあったわけですが、当時「白血病」を発見し秘かにその治療を続けてきた由で、今の病状は「急性骨髄性白血病」で余命数ヶ月との診断でした。そんな事を知らない彼は一方では最愛の妻の病状を憂い、一方では永い間の四八会幹事の責任から2月初め急死した同期の原富一郎君や入院中の樋口達君(3月31日死亡)の世話が出来ないことで頭が一杯のようでした。私は常任幹事である杉本一郎、前島敬夫両君を初め有志とはかり、3月初旬、在阪同期生に状況報告をすると共に「資金カンパ」も兼ねて緊急集金の呼びかけをしました。この時私はつくづく「北野」という名門を出た喜びを感じたわけですが、一番忙しい期末の3月に、それも一週間足らずという短い期間に、拙宅迄電話やら書留が相次ぎ、中には病中の身体で会場まで足を運んでくれたり、予想以上に大勢の方に集って頂き、カンパも目標を達成できました。彼の生前に我々の友情を伝えることができ、彼の理事としての労苦に少しでも報いられたことを今でも良かったと考えております。

これは後で聞いた話ですが小学校から一緒だった川西順一君は4年前からの眼病で失明に近い病状ながら(勿論外出禁止)奥さんに手を引かれ遠いところを病院まで見舞われた由、思はず涙が出て参りました。考えてみますと50年前の今頃は北中二年生、彼の病気が、マンネリ化した50年の友情を甦らせてくれたような気がいたします。

54kg(年末時)から47kg(1月21日)そして42kg(3月10日)と減り続けた体重が3月20日頃には45kgと増えて参りました。同期生の友情と激励に応じて彼は必死に食べる努力を続けたようです。奇蹟が起りかけたような気がいたしました。それがあー、あー。

3月28日朝「突然意識不明になった」とTELが入り病院にかけつけました。胃切除の大手術を受けられ、直前まで御主人の病名を知らされなかった住島夫人の気持は如何ばかりだったでせう。意識不明の彼の耳許で夜寝て迄「パパ、パパ」と呼びかけられる夫婦愛の美しさに私の脚は立ちすくんだままで動けない思いでした。

READERS FORUM

Utility Poles

To the Editor:

A friend of mine who has recently returned from his tour around Europe tells me how pretty the streets of metropolises there look, and says the secret of their pretty appearances is that they have no utility poles — electric, telephone and telegraph poles — standing along their streets.

In the "Yurakucho" of the vernacular Mainichi, evening edition (July 13), the columnist too describes that matter and suggests that these should be replaced with underground cables to make our cities appear fine.

In their opinions, the source of the ugly appearance of our streets are the utility poles remaining standing. They suggest the streets should be deprived of all these poles.

My opinion is to the contrary. How vividly I remember the day when the electric poles were raised in my hometown for the first time! It was on New Year's Eve more than three score of years ago, and I was a fourth grader then. How intently I gazed at operators working on the tops of the poles just raised! They brought us light, telephone and telegraphs. They are the carrier of culture and civilization.

How many of us have not played tag around the utility poles in our childhood? How many of us have not played janken at one pole and, losing it, carrying all the other children's bags of school things to the next pole on the way home from school?

The utility poles are the spring of our happy memories. The streets deprived of these poles would be places bleak, desolate and deserted, and stripped of culture, civilization and humanity. I wish all the streets across our country had utility poles standing on both sides.

KIHEI MIZUTORI

Toyonaka, Osaka

血圧は120-100-80-60と下り、その中で彼は生き抜いたのですが。

「白血病」とは恐い病気ですね。私にはよくは判らないのですが、体内の造血機能が失はれ、輸血位ではとても追つかない由、3月29日午後2時4分永眠、それは壮絶な戦いに全力を使い果たした安らかな男の顔でした。

葬儀は3月31日午後に行われました。月末であり高槻駅からもかなり遠いところ、その上風雨が強い悪条件でしたが、同期生21名が参列、恐縮したのは恩師代表として梅垣淳二先生が来られた事でした。

東京六校四八会も此を契機として、緊密な連絡をとりあえるようになりました。

桜の開花前に我々四八会は三人の同期生を失いましたが、今、私はよみがえる友情をひしひしと感じています。

「住島綱一君、安らかに眠って下さい」 5月31日

素 描

ここ本州最北端の地

十六銀行専務取締役 龜山仁郎(昭和九年卒)

函館からフェリーで約二時間、津軽海峡を東南に渡ると大間町の漁港に着く。人口八千人余、漁業を主とする住民が約一千人の町で、海の香が町中に漂っていた。

中心街から車で五分ほど走った海岸に「ここ本州最北端の地」の石碑が建っている。東北は太平洋、西は津軽海峡を経て日本海に通じている。大間町の漁港から小舟で五分くらい北にこぐと、弁天島という岩と雑草の小さな島がある。

灯台関係者が住んでいるだけ。背丈ほど伸びた雑草をかき分けつつ島の周囲を歩いても、三十分とはかからない。「かもめ」が島の北側に群がっていた。人間を無視してそばを通っても平気である。「この島のここが本州の最北端で、ここらあたりで太平洋と日本海の潮の流れが合流している」と教えられた。案内してくれたのは大間町の古老でこの地に七十余年生活し、母親は九十九歳、耳は遠いが非常に元気である。

古老夫婦の子供たちは皆立派な社会人で、町の教育、文化、観光の指導者として活躍している。夕食に「今、海からとってきた」と刺がピクピク動く「生うに」を大皿に山盛りごちそうになったが、その家の孫も食卓を囲んでの団らんが楽しめる家であった。

古老は若いころ戦争で苦しい生活体験もあったようだが、自分を語ろうとせず、こよなくこの北端の土地を愛し、町の長老として住民の尊敬を受けている。海に働き、野菜を作り、黒松の防風林を育てていた。

小高い丘に建っている隠居所にも案内されたが広い窓から太平洋が一望千里で、居間にドッキリと大型双眼鏡が備えつけてある。「これは?」と問いかけると、古老は、てれくさそうにニヤリとして「わしが見ておってもどうにもならんが…。沖を通る外国の船が…」と一言ポツリと話しながら海をじつとみつめている目は、北方領土を速くのぞみ、過去への痛恨と将来への悲願をたたえている目である。

昨夏、クナシリ、エトロフに津連が数千人を送り込み、津軽海峡を東方へ通船が兵器を積んで通過し、空になった船が宗谷海峡を通ったといった話を思い出した。日本の本州最北端に住み、この土地を愛し、海に生きてきた男の胸中が痛いほど伝わってくる。

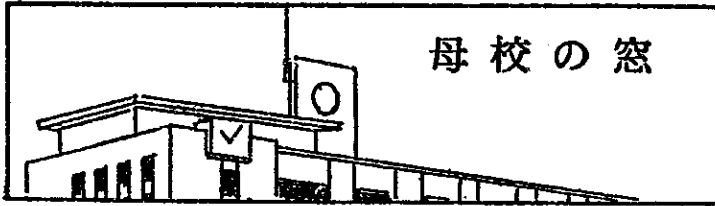
平和が続き、古老の心をさわがすことなく、海に働き畑を耕し黒松の防風林を育てる生活がいつまでも続くことを祈りつつ別れを告げた。

機械工具・樹脂製品・平和重油ストープ  
〒532 大阪市淀川区木川東1丁目3番24号

株式会社 ヒシヒシ

代表取締役 平佐園夫(第50回卒)

電話大阪06 (301) 4651-6  
(303) 8441-2



## 母校の窓

### 御祝い

本年度は、田上泰昭・博本正和両先生が、昭和55年11月3日に大阪府教育委員会より、府立高校永年勤続25年の表彰を受けられました。  
なお神永信之介(技師)さんが事務職員として本府30年永年勤続者として表彰をうけられました。

### 御不幸

勝 正雄 先生(校医・大正12~昭和48年)は50年間本校の校医として、職員生徒の健康管理に尽力され、昭和48年創立100周年を期に引退されてからも、開業医として元気に診療をつづけられておりましたが、去る5月10日永眠されました。つっしんでご冥福をお祈り申し上げます。

### 職員異動

阿部俊一(S25~S56) 書道  
岡本誠人(S55~S56) 英語  
の両先生が、昭和56年3月31日付をもって本校を去られました。阿部先生は悠々自適。書道・合気道にと益々ご精進されておられます。なお本校には毎週月曜日に必修クラブの合気道指導に来られます。今後ともよろしく。又岡本先生は加納高校の方へ転動されました。又、昭和56年4月1日付をもって次の新しい先生方をお迎えました。  
小川泰彦(渋谷高校) 国語  
高橋昌弘(八尾高校) 社会  
森田 実(柴島高校) 数学  
篠原芳雄(摂津高校) 保健体育  
高岡靖弘(三島高校) 書道  
なお、昭和55年12月付にて、福岡 賢(数学)先生が講師より教諭になられました。又、講師に新しく伊丹恵子(英語)先生をお迎えしています。

### クラブだより

56. 8. 1 現在

#### 【バスケットボール】

公式戦、男子S55. 8. 12第33回全国大会予選兼第34回大阪大会、第1回戦55-72対池田高敗。S55. 11. 23・30第34回全国大会予選兼第35回大阪大会第1回戦89-43対吹田高勝、第2回戦62-74対関大一高敗、S56. 5. 3・10・31第35回全国大会予選兼第36回大阪大会第1回戦58-50対西寝屋川高勝第2回戦71-52対勝山高勝、第3回戦48-85対寝屋川高敗。  
定期戦、男子S56. 4. 5四校定期戦47-20対灘高勝、44-75対神戸高敗。  
連絡  
(男子)四校定期戦が復活し、本校が会場でした。

#### 【ラグビー】

公式戦、全国高校ラグビー大阪大会1回戦4-8対八尾高敗。近畿高校ラグビー大阪大会1回戦42-6対盾津高勝、2回戦12-0対大東高勝、3回戦33-0対茨木工高勝、準決勝4-0対南寝屋川高勝、決勝0-27対大阪工大高敗。大阪府春季大会1回戦64-0対泉大津高勝、2回戦38-4対高津高勝、3回戦4-6対牧野高敗。  
定期戦、洛北戦35-0勝。天王寺戦4-28敗。  
記事・連絡  
北摂地区六校(北野、池田、東豊中、桜塚、刀根山、豊島)でリーグ戦を行い、優勝し、70期自見弘之監督より優勝杯が授与されました。

#### 【女子バスケット】

公式戦、第28回大阪高校バスケットボール新人大会兼第28回近畿高校バスケットボール大会67-50対豊中高校勝、34-38対箕面高校負。第34回全国高校バスケットボール選手権大会大阪府予選97-24対金剛高校勝、57-42対PL学園勝、70-27対布施北高校勝、83-72対箕面東高校勝、ベスト16進出、22-110対薫英高校負。

#### 【器械体操】

公式戦、2部大会女子団体1位・女子個人2位、大阪高校総合体育大会女子団体2位・女子個人1位、大阪高校春季体育大会女子個人6位、大阪高校選手権大会女子個人4位。

#### 【サッカー】

公式戦、大阪高校総合体育大会兼全国高校選手権府代表決定戦0-6対高槻北高負。冬季大会兼近畿高校選手権府予選6-0対浪速工勝、2-1対茨木高勝、1-1(PK3-2)対科理工大勝、1-1(PK4-5)対羽曳野負。春季大会兼全国高校総体府予選0-1対金蘭千里高負。  
定期戦、睡所高校2-2引き分け、天王寺高校1-2負。

#### 【野球】

公式戦、夏の大会0-6対今宮負、秋の大会0-3対和泉工負、春の大会2-5対桜宮負。  
定期戦、浜商2-10負、天王寺3-1勝、市岡5-0勝。

#### 【ソフトボール】

公式戦、S55年度夏の大会大阪高校総体5-4対旭勝、1-7対泉尾敗。S55年度秋の大会大阪高校部別大会7-8対厚町高敗。S56年度春の大会高校春季大会6-4対藤井寺勝、9-1対西淀川勝、5-7対松原敗。



Melbo

ジョージ・ハミルトンをキャラクターに、  
アダルトのシックな着こなしを追求するメルボです。

メルボ紳士服株式会社

取締役社長 清水貞保 (53期生)



## 【剣道】

公式戦、大阪府下優勝大会男子(高校の部) 1-3 対清風高負。女子個人(佐々木) 1回戦負。35回大阪総体(男子団体) 2回戦2-3 対市立堺高負、女子団体5回戦1-2 対天王寺高負府下ベスト16。27回大阪新人戦男子団体2回戦3-4 対北淀高負、女子団体2回戦2-3 対河南高負。28回全国高校(府予選)男子団体2回戦2-2 対東百舌鳥高代表戦により勝、3回戦4-1 対北陽高勝、4回戦3-2 対堺東高勝、5回戦2-3 対高石高負府下ベスト16。女子団体1回戦5-0 対豊中高勝、2回戦4-1 対福島女子高勝、3回戦3-1 対梅花高勝、4回戦2-3 対堺東高負府下ベスト16。男子個人(佐本)府下ベスト8。女子個人(牧野)府下ベスト16。男子団体女子個人(牧野)は7月の大阪府下優勝大会の出場権を得る。23回北摂大会女子団体優勝。男子団体準々決勝1-2 対豊中高負。

定期戦、対天王寺高戦(男子)負、(女子)負。対大手前高戦勝。3高戦(北野、池田、豊中)男子団体準優勝女子団体優勝、男子個人(野村)準優勝、女子個人(坪倉)準優勝、女子個人(橋本)優勝。

### 連絡

現在剣道部は28名の新入部員を加え、41人という大人数で練習をしています。最近では実力も向上してきました。今後とも指導のほどよろしくお願ひします。

## 【美術】

### 連絡

故岡島吉郎先生の遺品の中より、昭和11年より昭和24、5年頃迄の美術部部誌が見つかり、これを手がかりに最近迄の部誌的なものを整理する必要があると思われる。110周年迄に何とかしなければと思っています。最近の部活動は夏季、白馬合宿を中心に高校展に出品、昨秋の府下高校文化祭には本校より一点ポスターが選ばれました。

## 【新聞】

北野ニュース復号第8号、昭和55年9月22日発行。六稜新聞第140号、昭和55年12月2日発行。六稜新聞141号、昭和56年2月25日発行。新入生歓迎号(号外)、昭和56年4月1日発行。新入生対象アンケート、昭和56年4月12日実施。六稜新聞第142号、昭和56年5月19日発行。北野ニュース復号第9号、昭和56年7月20日発行。教科書検定に関するアンケート、昭和56年7月20日実施。

## 【写真】

3年、佐野剛、昭和55年11月1日第一回オリンパスフォトコンテスト学生部門に入賞。

### 連絡

OBの方々の名簿を作成しようと思ひます。本校写真部までご連絡下さい。



写真は入賞作品「Naoko」モデルは同級生、両君とも本年3月卒。

## 【書道】

### 活動状況

北野に33年間御在任、その間幾多の子弟を育てられ、御自身も日展審査員として御活躍された阿部先生が、御退任になられ後任には、41年度の本校卒業生の高岡先生が着任されました。

クラブの活動としては、週三回の放課後二時間の練習、主として、六朝から唐の法帖の臨書をして、条巾に仕上げています。練習が足りない時は昼休みを利用して練習をします。去る6月14日の文化祭では、恒例の講堂での席上揮毫を行ない、書道教室で作品展示をしました。

阿部先生御所蔵の墨の名品展示が今年のトピックで、150年前の写真でしか見られない素晴らしい品物が、展示されました。書道部としての現在の悩みは部員数が少ない事です。現在1年生部員が1名、2年4名、3年3名といった状態で、練習、作品の質は落さぬよう頑張っていますが、量的にはやはり無理があり何とか、1年、2年で10名程度を頼っています。

## 【化学研究】

本年度の文化祭では淀川の水質検査の研究発表を致しました。研究発表とは言ってもまだ始めたばかりの段階で、まだまだ未熟ですが部員一同真剣に打ち込んだものです。今年は部員が少なく文化祭も心配でしたが、その分一同が一体となって熱意をもって取り組み、結果はまずまずでした。今後もこの水質の研究を続けて充実した活動にしていきたいと思うのですが、少ない部員数と時間的束縛、それに私達の未熟な経験では前途多難と思われまふ。各方面に進まれている先輩方の御経験並びに御助言を戴き、化学研究部を益々発展させていきたいと思ひます。

## 【E.S.S】

従来の通りいっぺんのカセットのみによる活動を改めて、カセットの他に、No Japanese, Dictation, 発音テープ etc を取り入れて内容の豊富な活動をしている。また更には、スクラブルなどをして、単語力をつけようと努力中。体験には初の試みとして、外国からお客様を招いて日常生活・学校生活(日米比較)を紹介する予定。今年加わった8名の1年生と共に楽しくて中身の濃い活動を展開中。

## 【芸文】

「北野文学」1年間休刊しましたが、去る6月14・15日の文化祭に復刊(41号)になりました。1年間のブランクで作風も変わったようですが、今後ともがんばります。

## 【囲碁・将棋】

公式戦、第5回国高校園碁選手権大会(府予選)個人戦で、①松澤邦明君(2年)は3勝1敗で、惜しくも代表にはなれなかったが4段の免状を授与された。②鳴上佐紀子さん(2年)は、昨年度は府代表となり、全国第6位に入賞したが、本年度は府のベスト5によるリーグ戦に2勝2敗の成績で代表にはなれなかった。

### 連絡

11月3日(10時より)、本校旧図書館2階に手談室(碁碁)を設けますので、同好の士は(段級位にかかわらず)お気軽にご参加下さい。

## 【コーラス】

公式戦、関西合唱コンクールBグループ11位銅賞。

定期戦、六校交歓音楽祭、新入生歓迎演奏会、文化祭。

# 同窓会名簿の広告を募集しています!!

## —— 昭和58年度母校創立110周年記念

## 六稜同窓会名簿の掲載分として ——

昭和58年は母校創立110周年にあたりますが、同窓会では記念総会とは別に、記念事業として六稜同窓会名簿を発行する予定です。2年先のことであり、名簿の販売価格等細かい事項は未定ですが、その準備の一つとして広告を下記要領で募集中です。どうか奮ってご参加ご協力下さい!!

### 1. サイズと料金

|              |                   |          |
|--------------|-------------------|----------|
| 見開き1頁(表・裏とも) | 縦 21.5cm × 横 16cm | 300,000円 |
| 中はさみこみ1頁     | 21.5cm × 16cm     | 100,000円 |
| ◇ 1/2頁       | 10.75cm × 16cm    | 60,000円  |
| ◇ 1/3頁       | 7.15cm × 16cm     | 40,000円  |
| ◇ 1/4頁       | 10.75cm × 8cm     | 30,000円  |
|              |                   |          |

### 2. 申し込み期間

昭和57年12月までとしますが、なるべく早目に申し込むようにお願いします。

### 3. 申し込み先

〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13

大阪府立北野高等学校内 六稜同窓会 名簿広告係

### 4. 申し込みの様式

広告の原稿は、ずっと遅れて後でもよろしいのですが、とりあえず申し込みをお願いします。様式は下記のとおりです。

申し込みは葉書で、もし原稿同封の場合は葉書大の用紙でお願いします。書式は次のように統一しておきますので、①より順に記載して下さい。

- ① 名簿広告の申し込み
- ② 申し込み日時
- ③ 卒年・卒回・氏名
- ④ 郵便番号・住所・電話
- ⑤ 広告社名
- ⑥ 郵便番号・会社所在地・電話
- ⑦ 主たる連絡先(自宅か会社かの別がわかるように、③又は⑤の後に○印をつけて下さい。)
- ⑧ サイズと料金
- ⑨ 原稿同封と別送の別

例

|   |                      |          |
|---|----------------------|----------|
| ① | 名簿広告の申し込み            |          |
| ② | S56・10・1             |          |
| ③ | S28年・65回 北野太郎        | ○ ⑦      |
| ④ | 〒531 大阪市淀川区中津4-5-8   | 又        |
|   | TEL 06-371-7528      | は        |
| ⑤ | 北野商事株式会社             | ○ ⑦      |
| ⑥ | 〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13 |          |
|   | TEL 06-303-5661      |          |
| ⑧ | 中はさみ込み1頁             | 100,000円 |
| ⑨ | 原稿は別送します。            |          |

# 大学合格者一覧表

(56. 4. 23 現在)

| 国立    | 男女 | 計  | 養護大  | 1      | 1   | 中京大  | 1     | 1        | 兵庫医科大 | 6      | 6     | 行岡専門学校                | 1      | 1      |         |     |     |    |
|-------|----|----|------|--------|-----|------|-------|----------|-------|--------|-------|-----------------------|--------|--------|---------|-----|-----|----|
| 北海道大  | 3  | 1  | 4    | 高知医大   | 1   | 1    | 岐阜商科大 | 1        | 1     | 武蔵川女子大 | 9     | 9                     | 藤野専門学校 | 1      | 1       |     |     |    |
| 北海道教大 | 1  | 1  | 九州大  | 2      | 2   | 大谷大  | 2     | 2        | 希塚山大  | 1      | 1     | エーエス・リポート<br>ビジネススクール | 1      | 1      |         |     |     |    |
| 小樽商大  | 1  | 1  | 鹿児島大 | 1      | 1   | 京都外大 | 1     | 1        | 天理大   | 1      | 1     | 福岡教員養成所               | 1      | 1      |         |     |     |    |
| 秋田大   | 1  | 1  | 合計   | 171    | 92  | 263  | 京都薬大  | 3        | 12    | 15     | 産業医科大 | 2                     | 2      | 54年一昨年 | 男女計     |     |     |    |
| 筑波大   | 2  | 2  | 公立   | 男女計    | 70  | 20   | 90    | 同志社女子大   | 8     | 8      | 第一薬科大 | 1                     | 1      | 国立     | 28      | 23  |     |    |
| 東京大   | 14 | 1  | 15   | 都留文科大  | 1   | 1    | 1     | 同志社女子大   | 8     | 8      | 合計    | 29                    | 25     | 29     | 12      | 37  |     |    |
| 東京学芸大 | 1  | 1  | 1    | 岐阜薬大   | 1   | 3    | 4     | 同志社女子大   | 8     | 8      | 合計    | 29                    | 25     | 29     | 12      | 37  |     |    |
| 二橋大   | 1  | 1  | 1    | 京都府立医大 | 2   | 2    | 4     | ノートルダム女大 | 1     | 1      | 婦大    | 男女計                   | 私      | 立      | 20      | 25  |     |    |
| 富山医大  | 1  | 1  | 1    | 大阪女子大  | 2   | 2    | 2     | 立命館大     | 27    | 13     | 35    | 京都府立女子                | 1      | 1      | 短大      | 4   | 4   |    |
| 福井医大  | 1  | 1  | 1    | 大阪市立大  | 16  | 11   | 27    | 龍谷大      | 1     | 1      | 2     | 武蔵野美術                 | 1      | 1      | 短大      | 4   | 4   |    |
| 山梨大   | 1  | 1  | 1    | 大阪府立大  | 14  | 5    | 19    | 大阪医科大    | 8     | 7      | 15    | 中京女子                  | 1      | 1      | 就       | 5   | 5   |    |
| 信州大   | 1  | 1  | 1    | 神戸商大   | 2   | 2    | 2     | 大阪工大     | 1     | 1      | 1     | 京都女子                  | 19     | 19     | 合計      | 221 | 253 |    |
| 岐阜大   | 1  | 1  | 1    | 神戸市立外大 | 1   | 1    | 1     | 大阪工大     | 1     | 1      | 2     | 関西外語                  | 6      | 6      | 55年(昨年) | 男女計 |     |    |
| 浜松医大  | 1  | 1  | 1    | 奈良県立医大 | 1   | 1    | 2     | 大阪薬科大    | 1     | 13     | 14    | 金                     | 2      | 2      | 国立      | 19  | 25  |    |
| 三重大   | 1  | 1  | 1    | 和歌山医大  | 1   | 1    | 1     | 大阪経済女大   | 1     | 1      | 1     | 帝塚山                   | 2      | 2      | 公立      | 31  | 16  |    |
| 滋賀大   | 3  | 3  | 3    | 合計     | 36  | 27   | 63    | 追手門学院大   | 1     | 1      | 1     | 帝国女子                  | 1      | 1      | 私立      | 22  | 26  |    |
| 京都大   | 75 | 7  | 82   | 私立     | 男女計 | 20   | 26    | 46       | 関西大   | 20     | 26    | 46                    | 相愛女子   | 1      | 1       | 短大  | 34  | 34 |
| 京都教育大 | 1  | 1  | 1    | 城西農科大  | 1   | 1    | 1     | 関西医科大    | 3     | 4      | 7     | キリスト教                 | 1      | 1      | 準大      | 3   | 3   |    |
| 京都工繊大 | 4  | 4  | 8    | 青山学院大  | 3   | 3    | 3     | 関西外大     | 3     | 3      | 3     | 大                     | 2      | 2      | 就       | 1   | 1   |    |
| 大阪大   | 27 | 11 | 38   | 慶応義塾大  | 17  | 4    | 21    | 近畿大      | 3     | 3      | 3     | アール                   | 1      | 1      | 合計      | 206 | 271 |    |
| 大阪教育大 | 1  | 19 | 20   | 駒沢大    | 1   | 1    | 1     | 帝国女子大    | 1     | 1      | 1     | 神戸常盤                  | 1      | 1      | 56年(本年) | 男女計 |     |    |
| 大阪外大  | 2  | 4  | 6    | 上智大    | 2   | 1    | 3     | 帝塚山学院大   | 2     | 2      | 2     | 甲南女子                  | 2      | 2      | 国立      | 171 | 92  |    |
| 神戸大   | 27 | 22 | 49   | 中央大    | 4   | 4    | 4     | 甲南大      | 8     | 8      | 8     | 合計                    | 41     | 41     | 公立      | 36  | 27  |    |
| 奈良女子大 | 6  | 6  | 12   | 津田塾大   | 1   | 1    | 1     | 甲南女子大    | 1     | 1      | 1     | 華大学                   | 男女計    | 私      | 立       | 29  | 29  |    |
| 和歌山大  | 1  | 1  | 2    | 東京女子大  | 1   | 1    | 1     | 神戸学院大    | 1     | 2      | 3     | 防衛大                   | 1      | 1      | 短大      | 41  | 41  |    |
| 鳥取大   | 3  | 3  | 6    | 東京女子医大 | 2   | 2    | 2     | 神戸女子学院大  | 9     | 9      | 9     | 防衛医大                  | 1      | 1      | 準大      | 2   | 2   |    |
| 鳥取医大  | 1  | 1  | 2    | 東京理科大  | 3   | 1    | 4     | 神戸女子大    | 17    | 17     | 17    | 合計                    | 2      | 2      | 就       | 7   | 7   |    |
| 岡山大   | 2  | 2  | 4    | 日本大    | 1   | 1    | 1     | 関西学院大    | 47    | 33     | 80    | 各種学校                  | 男女計    | 合計     | 48      | 66  |     |    |
| 広島大   | 1  | 2  | 3    | 日本女子大  | 1   | 1    | 1     | 松蔭女子学院大  | 2     | 2      | 2     | 神田外語学院                | 1      | 1      |         |     |     |    |
| 徳島大   | 1  | 1  | 2    | 明治大    | 1   | 1    | 1     | 聖和女子大    | 1     | 1      | 1     | 国立専門学校                | 1      | 1      |         |     |     |    |
| 香川医大  | 1  | 1  | 2    | 早稲田大   | 32  | 3    | 35    | 麗正学院女子大  | 1     | 1      | 1     | 短大                    | 2      | 2      |         |     |     |    |

## 六稜同窓会名簿について

今、開封された会報の封筒をよくごらん下さい!!! — 氏名右下の数字と\*印は、あなたの個人番号と年会費納入のしるしです。 —

郵便番号・住所・氏名の記載があり、氏名の右下に小さく、数字と\*印がついていますが、数字は、個人番号です。前3ケタが卒業回数、あとの3ケタが学年別の通し番号で、記載の番号があなたの本年度(昭和57年8月まで)の個人番号です。これは不明者が復活したり、住所判明者が不明者になったり、他界者になったりすることで、毎年変わりますから、よろしくご了承をお願いします。

又、数字のうしろの\*印は、昭和55年度年会費納入済のしるしです。これは台帳作成の都合で大体6月末日までに振り込まれた分までは記載しておりますが、それ以後振り込まれた分については台帳作成中ですので入力出来ず、従って記載されておられません。しかし台帳にあとで記載し、来年度には入力されます。これもあらかじめご了承下さい。

さて、あなたの場合は如何ですか? 納入済みでしょうか。どうもご協力ありがとうございました。

0 8 2 - 0 0 1 . \*

卒回

卒回の中で  
の順序

昭和56年度  
年会費納入

# プロフィール

## ユーゴ大使原作のバレエ

### ザグレブ音楽祭で好評

#### 中江要介 駐ユーゴスラビア大使 (53期)



中江 大使

【ザグレブ10日共同】中江要介駐ユーゴスラビア大使原作になるバレエ「いのち」が9日、第11回ザグレブ現代音楽祭の初日を飾ってザグレブの国立劇場で上演され、好評を博した。

同大使は賞完のペンネームをもち、劇の脚本なども幾つか手掛けた異色の外交官として知られている。大使の創作が任地で上演されたのは、日本の外務省始まって以来のことという。日ごろから文化外交に務めている同大使は「日本とユーゴの友好に役立てばこれ以上うれしいことはない」と謙そんしている。

このバレエの原作は、人が生まれ、成長し、やがて世を去るが、また新たな世代が誕生するという、人の世のはかなさと人類の息の長さを描いた極めて哲学的な内容。6年前の外務省アジア局長時代に東京で初演されたという。

出演者こそ全員ザグレブの国立劇場バレエ団員だが、あとはすべて日本人の作品。作曲は映画「影武者」「ええじゃないか」などで最近注目を浴びている池辺晋一郎氏。振り付けの片山通人氏は三月末現地入りし演出に当たったが、抽象的な内容だけに相当苦労したようだ。音楽は日本で録音したテ

ープが流された。

ベオグラードから来たユーゴのある音楽評論家は「いかにも日本的な内容と思うが、大変面白かった。ただ練習にもっと時間がとれたら、もっと良かったでしょうね」と言っていた。(56. 5. 11 毎日新聞朝刊より転載)

## 編 集 後 記

\*皆さん、お元気ですか。どうやら今年も会報の校正が無事終了そうで、朱筆をもつ窓辺にツクツクボウシの声がきこえます。

\*在京の成る先輩から編集部宛お手紙を頂きました。「昨今の会報の卒業回数を示す表示は××期となっているが、卒業証書にも××回卒業というように表示されていたと思うし、そもそも北野の卒業回数制はあくまで卒業のときの回数であって、陸士海兵のような入学時の期ではないはず。卒業回数制の復活を求める」といった御趣旨のものでした。

\*たしかに従来の六校同窓会名簿などでは、表示は卒回です。しかし、高校卒業生の間ではお互い期で呼び合う傾向が強く、これはどうやら戦中戦後の激動期を6年間、一つ家で学んで来た62、63、64期の卒業生あたりからの慣行のように思われます。文献でも期は一めぐりのこととかで、回と似た意味らしいのですが、ただ最期とか一期一会と云うように単なる数詞ではなく思いつめた風情があつて、そんな語感に対する抵抗をおもちの方もおられるのでしょうか。勿論、軍学校の真似をしているわけではありませんので(ちなみに期を使っているのは宝塚、俳優養成所、司法研修所など)、これについては編集部としても慎重に対処したいと思っておりますが、何卒同窓諸兄からの御意見をお寄せ下さい。(J)

## 六 稜 文 庫

(昭和55年5月以降)

|            |       |                |   |     |           |
|------------|-------|----------------|---|-----|-----------|
| 旧 職 員      | 廣田種三郎 | 名勝史蹟文学探訪       | 1 | 128 | 55. 9. 30 |
| S 18卒(57回) | 藤田 邦昭 | 実践としての都市再開発    | 1 | 129 | 56. 1. 10 |
| S 5卒(昭五会)  | 川瀬 勇  | ニュージーランド       | 1 | 130 | 56. 1. 10 |
| S 5卒(昭五会)  |       | 六稜昭五会会報 第6号    | 1 | 131 | 56. 1. 16 |
| 六稜卓球会      |       | 六稜卓球OB会会報第3号   |   |     |           |
|            |       | (創立三十周年記念号)    | 1 | 132 | 56. 7. 25 |
| S 12卒(50回) |       | 互励 第16号 1979・5 | 1 | 133 | 56. 7. 25 |
| 同          |       | 互励 第17号 1980・5 | 1 | 134 | 56. 7. 25 |
| 同          | 柴田 仁  | 音楽と文化          | 1 | 135 | 56. 7. 25 |
| 同          | 柴田 仁  | 音楽と社会          | 1 | 136 | 56. 7. 25 |

(注) 氏名は寄贈者です。

なお他にも卒業生より図書館あてに寄贈された本がりましたが、「六稜文庫」宛になっているもののみ掲載しております。又「六稜文庫」は別途保管しております。



最新の技術と50年の経験を生かしたコンプレッサー及空圧製品の専門メーカー

## 株式 田邊空気機械製作所

本社・工場 大阪府摂津市千里丘2丁目14番6号 ☎代(06)(388)1331  
 名古屋工場 愛知県小牧市大字小牧800番地 ☎代(0568)(76)4191  
 東京支店 東京都中央区日本橋室町1丁目6番地 ☎代(03)(279)2481  
 名古屋営業所 愛知県小牧市大字小牧800番地 ☎代(0568)(76)4191  
 広島営業所 広島市広瀬町6-8 ☎代(0822)(32)8538  
 九州営業所 北九州市小倉区浅野2-17-46 ☎代(093)(531)1305